

2009 11



Architecture and Society

建築と社会

特集/第16回会員作品特集 “私の空間作法”

日本建築協会

「日本建築協会80年史1917-1996」 増刷頒布中 頒価 3,000円

1999年7月に発行した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関 一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領で申し込み下さい。

*

申込先 社団法人 日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984
頒価 1部3,000円(税・送料込み)
※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

日本建築協会80年史
1917-1996

A4判・240頁・並製本

「日本建築協会80年史」

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール(片岡 安・設楽貞雄・武田五一・池田 實・波江梯夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱 勉・松本禹象・宗 兵蔵・園部文雄・日高 胖・野村一郎・古宇田 實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂 静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・銭高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中鍊一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貴・足立 孝)

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」—尾亀清四郎・大林芳郎・小西 岬・佐野正一・横尾義貴・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言—

*

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由
■80年史編集委員会
長谷部朗郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉 毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」(坂本勝比古)より



「草創期の人々」より片岡安の項



会告

学生のための見学会

『大村家具工業(株)
家具工場』

申込はFAXかE-mailで
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp

学生のための見学会とは、建築及びデザインを学ぶ学生のために、進行中の建築現場や工場を紹介し、見学の機会を提供するものです。大学等の授業だけでは、建築現場や工場で製品が作られる過程やものづくりのポイントを伝えることは困難な面があります。そこで、日本建築協会では、教育現場からの要望を取り入れ、その要望を橋渡しする役目を担うべきと考え、この企画を昨年より開催しています。

企画第3弾は、大村家具工業(株)の「家具工場」です。大正2年創業のこの会社は企画から設計、施工までビル公共建築物、住宅、店舗等に幅広く取り組み、京都に培われた繊細な美意識と匠

の精神を受け継ぎ、時代の先端をゆくノウハウとセンスを磨き続けています。

教室内の講義では決して学ぶことが出来ない制作の現実を、是非見学してみてください。

日時 2009年12月5日(土)
14:30~16:30(約2時間)
見学先 大村家具工業(株)
京都市上京区西御前通下立売上ル
集合 現地
定員 20名
参加費 500円(保険代、資料代)
申込 申込用紙に記入の上、FAX

またはE-mailで。
FAX 06-6946-6984
E-mail : h-katayama@aaj.or.jp
(社)日本建築協会編集事業課
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
TEL.06-6946-6981



[申込書]

名称	大村家具工業(株)家具工場見学会		
学校名・学部・学科			
引率者職名・氏名	(おられない場合は記入不要)		
学生氏名・学年			
学生氏名・学年			
学生氏名・学年			
参加通知書送付先住所・TEL・FAX	〒	TEL	FAX

音羽電機工業(株)
雷テクノロジー
センター見学会

この見学会は、建築CPD情報提供制度認定プログラムです。
(社)大阪府建築士会(3単位)、
(社)日本建築家協会(3単位)

雷による被害金額は年間2000~3000億円と言われます。事務所・工場・住宅のIT化、機器の高度機能化と異常気象により、その被害領域は広がり、身近には落雷でパソコンが破壊されるなど思いがけない被害例も出てきています。冬には、日本海側では雷の季節を迎えます。この時期に合わせて、避雷設備のトップメーカー音羽電機工業(株)雷テクノロジーセンターを訪ねることを企画しました。

雷テクノロジーセンターにはユニーク



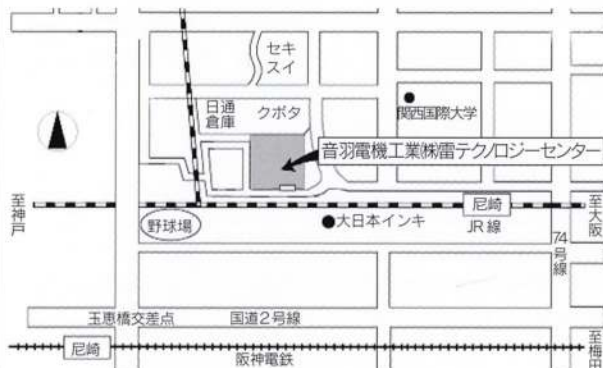
第1回グランプリ作品「雷光石火」
1999年7月21日撮影
音羽電機工業(株)「雷」写真コンテスト提供

な雷試験装置を設けており、当日は、雷発生のメカニズムの説明から、雷鳴や稲妻のデモンストレーションが予定されています。

日時 2009年12月8日(火)
14:00~17:00
見学先 音羽電機工業(株)
雷テクノロジーセンター
尼崎市潮江5-6-20
集合 音羽電機工業(株)雷テクノロジーセンター正面玄関
(13:30より受付開始)
JR尼崎駅下車・線路沿いに西へ徒歩10分
参加費 会員1000円、一般1500円、
学生は500円

定員 40人(申し込み先着順)
申込み FAXまたはE-mailで、
①催し名「音羽電機」
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証送付先
⑥連絡先電話番号
⑦CPDを申請される方は、申請先の団体名を明記の上、下記へお申し込みください。
申込先 (社)日本建築協会編集事業課
TEL 06-6946-6981
FAX 06-6946-6984
E-mail : jigyoka@aaj.or.jp

*同業者の参加はお断りいたします。



会告

第55回工高生
デザインコンクール
入選者発表—設計課題：
学校に建つ食堂—

日本建築協会主催による平成21年の
標記コンクールの入選者が、右記のと
おり決定いたしましたので発表します。
なお、入選作品は平成22年1月号に
掲載いたします。

- 応募校数/28校
●応募作品数/105点

入選・最優秀賞	山崎 靖子	大阪市立工芸高等学校	3年
入選・優秀賞	中村 知華	三重県立四日市工業高等学校	2年
入選・優秀賞	江端 佐知	大阪市立工芸高等学校	3年
入選	土肥 将也	山梨県立甲府工業高等学校	3年
入選	山口 千明	山梨県立甲府工業高等学校	2年
入選	海野 洸哉 佐野 慶輔	静岡県立科学技術高等学校	2年 2年
入選	矢野 高弘	私立名古屋工業高等学校	3年
入選	泉本 裕大	大阪市立都島工業高等学校	3年
入選	角川 歩	大阪市立工芸高等学校	3年
入選	右田恵里華	大阪市立工芸高等学校	3年

順不同・敬称略

2009年建築関係団体
合同忘年懇親会

今年は日本建築協会が当番会ですの
で、ふるってご参加下さい。

関西建築界恒例行事として、日本建築
協会、大阪府建築士会、大阪府建築士
事務所協会、日本建築家協会近畿支部
関係者が集い、忘年懇親会を開催し親
交を深めてまいりました。

本年は日本建築協会が当番会として下
記のとおり開催することになりました
ので、会員各位の多数のご参加を頂き
ますようご案内申し上げます。

日 時 平成21年12月14日(月)

午後6時～7時30分

会 場 太閤園迎賓館

ダイヤモンドホール
大阪市都島区網島町9-10
TEL.06 (6356) 1111
参加者 約300名予定
会 費 6,000円(福引付き)
申込み 11月19日(木)までに、会費を
添えて日本建築協会事務局ま
でお申し込み下さい。
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
振込先 三井住友銀行大阪中央支店
普通預金口座 0860034

三菱東京UFJ銀行瓦町支店
普通預金口座 0210054
郵便振替口座
00910-9-39975
名義はいずれも
社団法人日本建築協会

お願い ①出席者名簿の作成のため、
申し込みの際に氏名(ふりが
な)・勤務先をお知らせ下さい。
②申込者で11月27日(金)まで
に欠席のご連絡がない場合は
会費のご負担をお願いします。

2010年
建築関係14団体
合同新年交礼会

日 時 平成22年1月4日(月)
午後(時刻未定)
会 場 (未定)
参加者 500名予定
会 費 3,500円(当日欠席されても
会費をいただきます)
申 込 12月17日(木)までに会費を
添えて日本建築協会事務局ま
でお申し込み下さい。
TEL.06-6946-6981

FAX.06-6946-6984
振込先 三井住友銀行大阪中央支店
普通預金口座 0860034
三菱東京UFJ銀行瓦町支店
普通預金口座 0210054
郵便振替口座
00910-9-39975
社団法人日本建築協会

お願い ①出席者名簿の作成のため、
申し込みの際に氏名(ふりが
な)・勤務先をお知らせ下さい。
共 催 (社)日本建築協会
(社)日本建築材料協会ほか12団体

平成21年度
建築工事实務講習会

この講習会は、建築CPD情報
提供制度認定プログラムです。
(社)大阪府建築士会(7単位)
(社)日本建築家協会(6単位)

日 時 2009年12月3日(木)
9:00～17:00
会 場 大阪マーチャングイズ・マート
ビル(OMMビル)2階3号室
大阪市中央区大手前1-7-31
定 員 100名(先着順)
受講料:15,000円(含テキスト代)
*テキストは、当日配布

■申込方法

FAXまたはE-mailにて、

- ①催し名「講習会」
②受講者氏名(年齢)
③事業所名

- ④受講票送付先住所
⑤担当責任者
⑥電話番号
⑦受講料支払方法
(銀行振込、郵便振替、等)
⑧CPDを申請される方は、申請先の
団体名をお知らせください。

受講料は、前納制となっておりますの
で、併せて銀行振込・郵便振替等で納
入して下さい。受講料入金確認後、受
講票をお送りいたします。
なお、当会HPからお申込みいた
けますので、http://www.aaj.or.jp
をご覧ください。

■申込先

(社)日本建築協会編集事業課
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7F
TEL:06-6946-6981 FAX:06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaj.or.jp
URL:http://www.aaj.or.jp

<取扱銀行>

- 三井住友銀行
大阪中央支店(普通No.0860034)
- 三菱東京UFJ銀行
瓦町支店(普通No.0210054)
- りそな銀行
北浜支店(普通No.0272234)
- 郵便振替口座 00910-9-39975



トヨタカローラ新大阪 本社

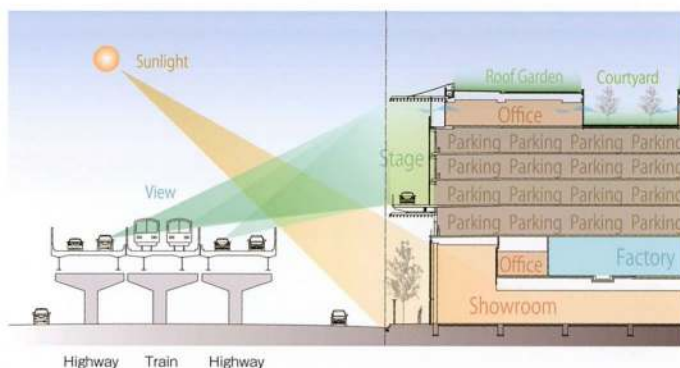
新御堂筋高架に面して建つ、カーディーラーの本社ビルである。ショールーム、整備工場、駐車場、事務所、屋外展示場という多様な用途を有機的につなぎ積層することで、ダイナミックな変化に富んだ、都市的空間の創出を目指した。見通しがきき視認性が高い、高層建物が並ぶ高架レベルには、奥行きをもつ鉄骨ルーバーとともに、約6mの片持ちスラブをせり出させ、高架の通過交通に開かれた展示空間としての空中ステージを設けている。一方、薄暗い高架下レベルに対しては、外壁のセットバックやガラススクリーンを通して自然光を地上まで導き、地域環境に対して、広く開放的なスペースとなるよう計画した。

7階にある本社機能としてのワークスペースには中央部に中庭を設け自然採光と換気を図っている。

「自然との共生」という建築主の想いを「かたち」にするため、エコロジーと車の共存の可能性を空間化することを目指し、屋上にはハイブリッドカーのエネルギー創出のための太陽光発電パネルを設置し、駐車場階外壁にはリサイクル材を利用した再生木ルーバーを設けた。また里山振興にも寄与する間伐材を用いた天然木ルーバーをショールーム内に取り込んでいる。多様な素材を線材に還元し、その表情にもたらされる陰影をもとに建物全体に調和をもたせている。

(倉田 悦男・宮島 照久／竹中工務店)

所在地——大阪府大阪市淀川区東三国3-11-2
敷地面積——3,080.52㎡
建築面積——1,809.13㎡
延床面積——11,246.90㎡
構造規模——S造 B1F、7F
工期——2008年7月～2009年8月
最寄駅——地下鉄御堂筋線 東三国駅
撮影——古川泰造



研究の風景

名古屋大学
大学院環境学研究科
都市環境学専攻建築学系

久野研究室

■はじめに一名古屋大学建築学教室—

名古屋大学工学部建築学科は1963年に創設され、4年後に工学研究科建築学専攻が創設されました。その後、1996年の大学院重点化とともに、工学部が5大学科となり、学部は土木工学科とともに社会環境工学科となりました。2001年には、学内の地球科学系・社会科学系とともに教員総数約130名の環境学研究科が創設され、土木系・物質系の一部とともに工学研究科建築学専攻は全部が都市環境学専攻に移りました。キャンパスプランなどを担当する教員が一部いますが、現在ほとんどの建築系教員は環境学研究科に所属しています。教員総数は27名ほどです。2年生以降の学部生は1学年約40名で工学部社会環境工学科建築学コースに、博士前期の大学院生は1学年30余名で環境学研究科都市環境学専攻建築学系に所属しており、これら全体で建築学教室が構成されています。

■環境設備系の教育研究体制

環境設備系の教員は5名で、教授では温熱環境・視環境・環境心理生理の久野覚と建築設備の奥宮正哉、准教授では建築設備・温熱環境の齋藤輝幸と空気環境・数値流体力学の飯塚悟があり、現在欠員の助教ポストがあります。

学生は、研究室ごと年度ごとに増減がありますが、環境系全体で学部卒論生約10名、博士前期1学年7.8名です。名大外からの院生は、留学生を含め3割ほどいます。現在久野研では、博士後期に韓国人留学生1名、博士前期に5名（うち中国人留学生2名）、卒論生1名です。

ゼミは大きく2種類あり、卒論生主体の卒論ゼミと大学院ゼミです。卒論ゼミでは卒論生が論文講読や研究発表を行ったりし



写真1 研究室メンバー

ます。院生も参加するため、研究室ごとに行っていますが、久野研は齋藤研と合同で行っています（写真1：欠席3名）。大学院ゼミは環境系合同で行っており、英文論文講読が主体ですが、博論、修論、卒論の研究構想・中間発表もこのゼミで行います。そのときだけ卒論生も参加します。ここで、環境系全体として、誰がどのような研究をやっているのかを全員が知ることになります。いろいろな研究テーマがありますので、教員も学生も大いに勉強できるゼミとなっています。研究の具体的な細かいことは、各教員による個別指導になります。

■積極的な快適性・プレザントネス

もう20年以上前になりますが、寒暑涼暖を区別する二次元温冷感モデルを開発しました（図1）。「涼しい」「暖かい」を「寒い」「暑い」の程度の低いものと考え、一次元に並びますが、夏に部屋が「暑い」ので冷房を入れた場合、「暖かい」を飛び越えて「涼しい」になり、身体が落ち着いてくると「暑くも寒くもない」という状態になります。逆に冬に暖房を入れた場合は、「寒い」「暖かい」「暑くも寒くもない」となり、一次元に並べた順番がおかしくなります。古くから知られていた現象ですが、このモデルにより初めてうまく説明できるようになりました。

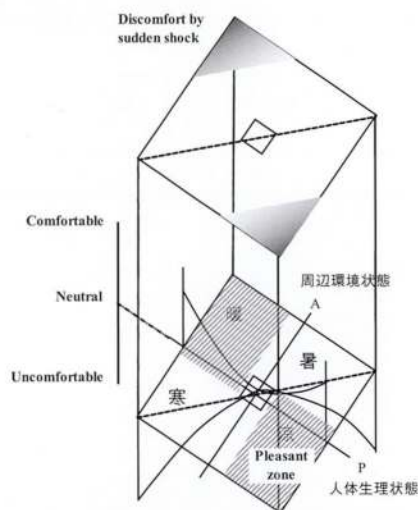


図1 二次元温冷感モデル



写真2 温冷感実験風景

この図は読み取りにくいと言われますが、下側の図は3次元になっていて、3次元目は快適感です。「暑」と「寒」の領域を斜めに切る破線は環境と身体がつりあっている状態です。暑ければあるいは寒ければ不快となりますので破線に対応する快適線は逆U字になります。一方、環境が中立温度であるとき、その前の状態が暑ければ暑いほど涼しくて快適、寒ければ寒いほど暖かくて快適になります。対応する快適線は正のU字型になります。同じ温度なのに前の状態如何で評価が変わります。「暖」「涼」の部分が「気持ちいい」という積極的な快適性・プレザントネス「快」で、中央の中立域が「不快がない」という消極的な快適性「適」、「暑」「寒」が不快域になります。上の図は、サドンショックの不快です。手足が冷え切っているとちょうどいい温度のお風呂でも痛くて入れません。でも一旦首まで入ってしまうと非常に気持ちよくなります。この図から、露天風呂やジェットコースター、アトリウムの話、新しい空調方法の提案などへ展開していますが、ここでは紙面の関係上省略します。久野・齋藤研の温熱環境の研究はこのモデルを前提としています（写真2）。

■PCとネットを使った室温制御

現代のオフィスでは各在室者がネットとつながったPCを持っていますので、ここから入力して室温制御をすることが可能です。意見分布から設定温度を変更することが考えられます。ハードクレマーがいつでも寒すぎるなどというケースも防げます。これを概念的に示したものが、図2です。具体的な図は省略しますが、快適優先モードと省エネモード、女性優先モードを開発しました。パナソニック電工との共同研究です。この技術は特許申請中で、既に製品化がなされています。この研究および以降紹介する環境心理研究の多くは、当研究室出身の名古屋市立大学原田昌幸准教授との共同研究でもあります。

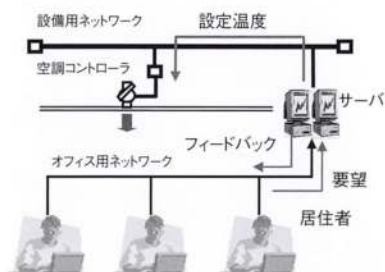


図2 居住者参加型空調システム

■環境条件によって、行為をする場所の選択肢が変わる？

猫は住宅内で一番いい場所に陣取ると言われます。猫は快適性だけで行動しているわけですが、人間の場合は読書をするとか何らかの目的を持って行動しますので、機能性と快適性を評価してその行為を行う場所を選択するはずです。エアコンをつけなくても快適性がそこそこあって機能性もまあまあなら、機能性は一番でもエアコンをつけないと快適性が得られない場所よりも選ばれる可能性が高くなるかもしれません。地球環境時代にあつては、エアコンをつけずにすませられる暮らし方をすべきです。写真3は、実際のモデルハウスでの実験風景ですが、夏秋冬の実験からそうした現象が明らかになってきました。東京電力との共同研究です。でも、このためには狭苦しい住宅では選択の余地がなく、ある程度の広さが必要でしょう。建築計画と環境工学の協働が図れないかと考えています。

■視環境評価

屋内外、あるいは実験室でいくつか実験をやってきましたが、ここでは現在やっている研究を紹介しましょう。図3は、環境学研究科社会環境学専攻の心理学系が持っている実験室の概要図です。魚眼レンズで撮影した画面を、同じ射影方式で半球スクリーンに投影すると元の状況が再現されます。前節のモデルハウス内部の魚眼写真の色彩をPhotoshopで変えて心理評価実験を行っています。日本人学生と中国人留学生の評価の違いが現れてきました。韓国人留学生との比較も計画中です。



写真3 モデルハウス実験風景

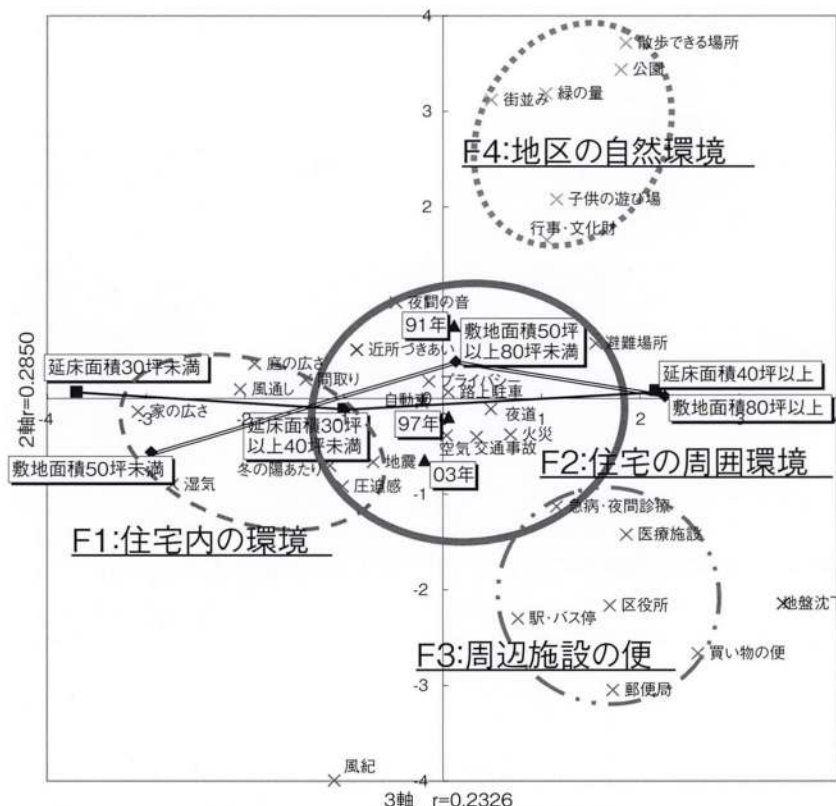


図4 名古屋名東地区91・97・03年調査の分析

■社会意識およびその変化を探索

筆者は、自身の大学院時代から社会調査による住民意識の研究を行ってきました。20数年にわたるデータの蓄積があります。図4はその研究の一例ですが、名古屋のある地域で6年ごとに行った3回の調査の再分析結果です。住宅および周辺環境に対する評価項目を林数量化Ⅲ類で分析しています。「住宅の広さ」を一つのインデックスとして分析に加えると、横軸に、広い家に住む人から狭い家に住む人までが並びます。対応する不満が明らかになっています。また、同時に調査年度をインデックスに入っていますが、縦軸に調査年度が並んでいます。不満の中心が年とともにずれてきている様子が分かります。

最近では、環境問題に対する大学生の意識の日中比較の研究を行っています。まだ、パイロットスタディの段階ですが、日本では名古屋大学、中国では上海・広州の大学で調査をしました。文系・理系などに層別

し、各大学数百のデータを集めて比較しています。今年度は、韓国済州大学で調査を行い日中韓比較を行います。大学によって、気候や周辺事情が異なること、学部構成や在籍者数など違いがあることなどから、なかなか一般化はしにくいのですが、ケーススタディを積み重ねて行きたいと思っています。大学生は将来それぞれの国の中核を担う人材になります。また現状を知ることにより、大学生のみならずもっと若年齢層への教育を如何にすべきかを考える資料になると考えています。

■おわりに

以上のように、当研究室では、温熱環境評価・視環境評価・社会意識およびその応用の研究が行われており、名古屋大学における環境設備系では、他の教員による環境物理の分野および実際の環境を実現する建築設備の分野と協働して研究を行っています。一つの大学で、建築環境・設備の多様な分野を網羅することは到底不可能ですが、名古屋大学は比較的バランスの良い構成ではないかと考えています。また、地球環境科学専攻には地震や温暖化の専門家が、社会環境学専攻には法律・経済・心理・社会・地理学の専門家がいます。名古屋大学環境学研究科は、総合的に有機的に教育研究できる体制であると思います。

（文責：久野覚）

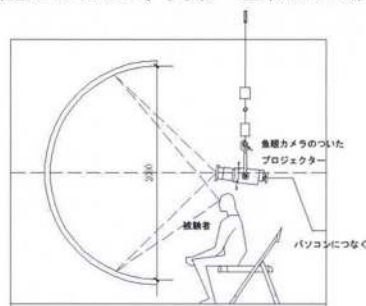


図3 ドームスクリーン概念図

卓の表情

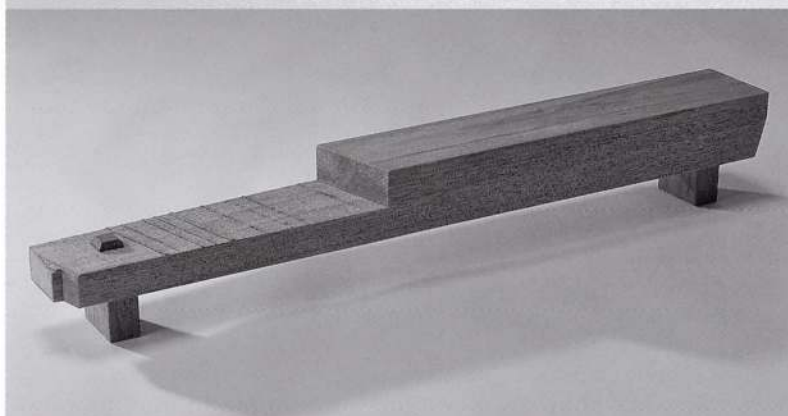
木工作家

岩崎 久子

無垢材で作られた卓はその本質的な質感だけでも、見るに触れるに心地良いものですが、表情のある卓もまた楽しいものです。

卓の様々な表情は木材の幾種にも及ぶ色の違い、感触の差、個々の材の形や個性から着想を得て多くの場合生まれてきます。朽ちかけた材の姿に人の手では作れない程の造形的な妙を発見する時もあり、忌むべき『割れ』にすら、割れようとする木の内在的力を感じます。この力を止めようとして硬い木で蝶契りを打つ、誰が考えたのか、この美しい蝶の形が機能しつつさらに風景を作ります。

最近はまだ、まったく何の変哲もない平凡な材、ただの柱の切り落としのようなものすら、『料理』の仕様はあるものだ、計画的にあるいは偶然的に表情が出てくるのを楽しみながら制作に勤しんでいます。



岩崎 久子 (いわさき ひさこ)

1954 和歌山市生まれ

1975 自由学園卒業

自由学園工芸研究所

1980～朝日現代クラフト展・伊丹クラフト展・暮らしの中の木の椅子展・大阪工芸展等に入選・入賞
今秋韓国にて3度目の個展予定
<http://www.geango.com>

企画編集 倉渕奈千子(作品作風小委員会)



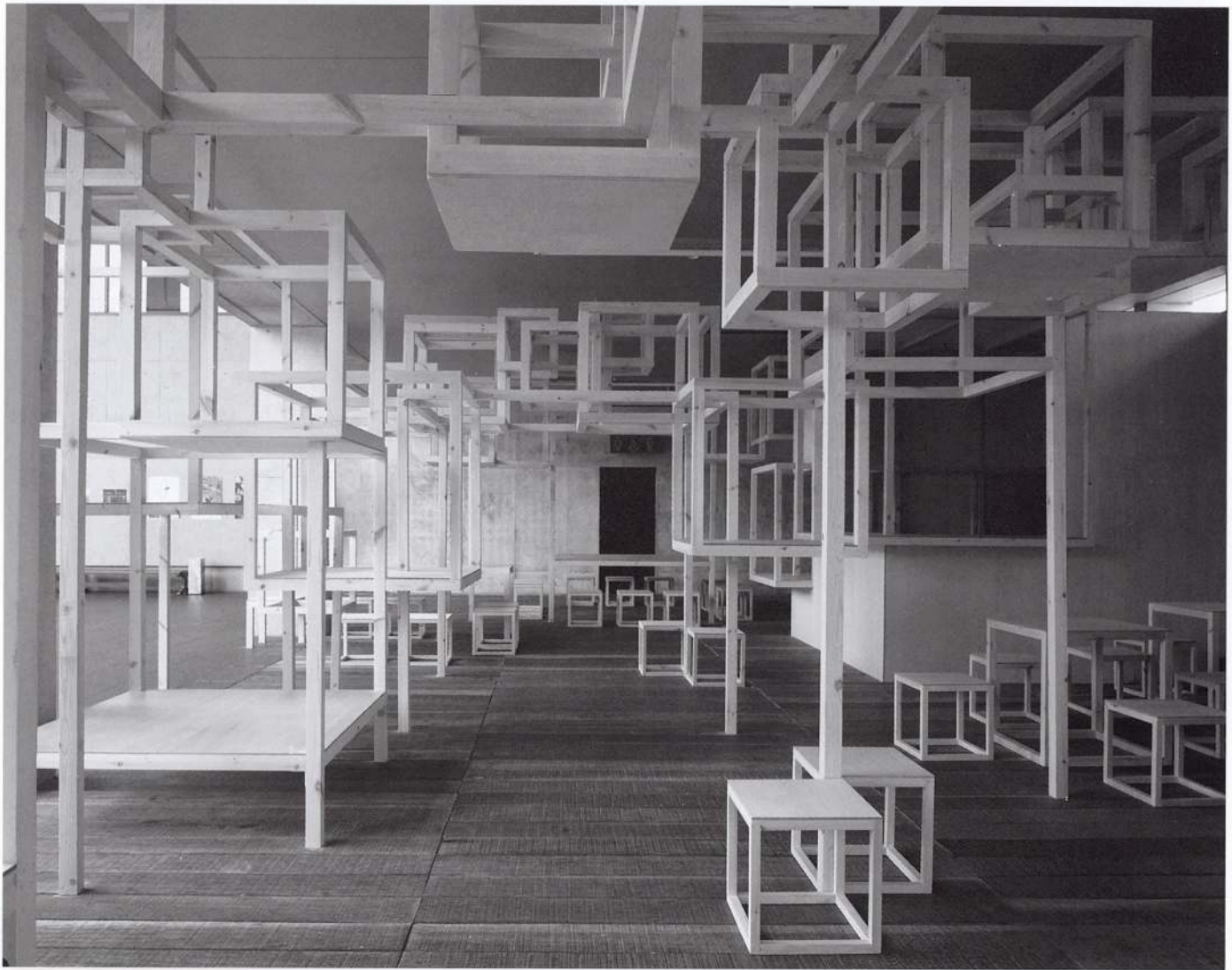
私の空間作法

日本建築協会 ■ 会員作品特集



こへびカフェ

水谷俊博+武蔵野大学水谷研究室



大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2009において木造建築物を構築するプロジェクト。十日町市越後妻有交流館キナール内に、カフェ及び団楽スペースと情報ステーション機能を持った「こへびカフェ」を建築。施工までを完全にセルフビルドでおこないました。パイン材で形成されたさまざまな大きさの立方体フレームが平面的、断面的に組み重なることにより、小さな木からつくられていく大きな森のような空間を創出しています。この森のような空間の下で、人々が喫茶を楽しみながら、集まり、憩えるスペースづくりをおこなっています。木のフレームは情報BOXの役割も果たし、越後妻有の紹介、芸術祭の情報、アーティストの紹介、ワークショップなどの情報を発信し、また展示スペースとし

ても機能します。コンテンツが時の経過により変化していくのに合わせて、こへびカフェ全体の姿も日々変容していきます。(水谷俊博)

水谷研究室制作メンバー

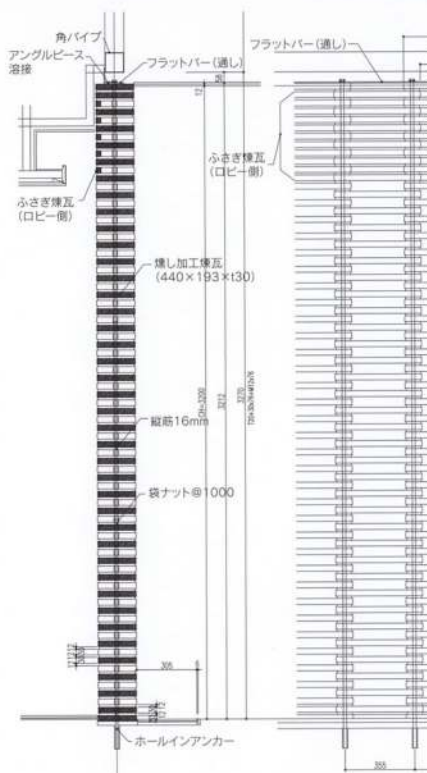
堀入勇生、上治良充、山中彬充、伊東絵里奈、中井孝伸、石戸弘子、菅野大地、清水智美、田中葉月、中村弥生、野口努、佐藤千晶、鈴木由美子、藤野里美、細田彩花、宮脇暁彦、矢野直子、尹我瑛

■こへびカフェ

所在地 新潟県十日町市本町
施工 武蔵野大学水谷研究室
建築面積 140.80㎡
床面積 7.29㎡
構造規模 木造軸組工法、1F
竣工 2007年7月
撮影 中島悠二

煉瓦による「塊」と「透」の表現

岡田邦弘+黒川宗範 大林組本店一級建築士事務所



この夏、神戸市灘区にある建築主の
本社ビルの商業施設ゾーンの一角
で、BBプラザ美術館はオープンし
た。

これまでも商業施設ゾーンに多くの
美術品を展示していた建築主が、絵
画を中心としたより多くの作品に接
する場所を提供するため、美術館を
建設することとなった。

商業施設ゾーンの中に美術感を挿入
する計画となったため、明るく開放
的な周辺空間に対し、重厚で量塊感
のある外装表現を求め、煉し加工を
施した煉瓦積みを選択した。

扁平な煉瓦を透かしながら積み上げ
ることで、周辺空間と美術館が、呼
吸し合い、商業施設ゾーン全体を美
術館にしたいという建築主の意図を
表現した。

(黒川宗範)

■BBプラザ美術館

所在地 神戸市灘区岩屋中町
施工 大林組
煉瓦製作 織部製陶
延床面積 494.86㎡ (美術館範囲のみ)
竣工 2009年4月
撮影 名執一雄 (ナトリ光房)

住まいを住環境として捉える

新居照和 新居建築研究所



敷地は吉野川堤防近くの建て込んだ住宅街にある。西隣の道路の向かいには用水が流れ、その際は果樹や草花が植わっている。この界隈では唯一の緑といえる風景を、住環境につなげようとする意識を反映さす試みをした。

3人の子供室以外の室はすべて1階に設け接地形にすること、道路に面した塀はRC造打ち放し仕上げにすることが、建築主からの条件であった。木材は地場の杉材を使い、できるだけ地域材をつかうことに努める。

塀と樹木で囲んだ外部デッキと一体化させた1階のLDK空間は、吹き抜けによる2階の子供室空間で囲み、住まいの中心に位置づける。RC塀は分節し敷地から後退させたり、開口を設けたりして、視界を上げたり風通しや親近感をもたせようとした。RC独立塀は用水の流れの方向に配置し、樹木を植えパーゴラをのせて、周辺環境の豊かさをつなぐ意思表示をする。住まいを拡げる住環境領域をつくった。

(新居照和)

■上吉野の家

所在地 徳島県徳島市

施工 アズマ建設

建築面積 76.00㎡

延床面積 118.75㎡

構造規模 W、2F

竣工 2008年7月

撮影 北田英治

外を取り込む家

高木秀晃



敷地は人々の通行量が比較的多い通勤・通学路に面している。街への適度な視線の繋がりとプライバシー確保に配慮しながら、開放的な空間づくりを目指した。開口部の前には落葉樹を植え、季節とともに変化する緑の風景を取り込んだ。心地よい夏の木陰や暖かい冬の日差しを感じることで、四季を通じて外を意識させる計画とした。

内部は吹抜けを中央に設け、見え隠れしながら連続するワンルーム的な空間とした。また、敷地境界いっぱいまで視線が抜ける構成とし、空間の広がりを感じられるよう工夫した。

(高木秀晃)

■蛭池の家

所在地 大阪府豊中市
施工 おさだ建築工房
敷地面積 105.52㎡
建築面積 52.17㎡
延床面積 86.35㎡
構造規模 W、2F
竣工 2006年12月

EDGE HOUSE

森村政悦 森村政悦建築設計事務所



この建物は、山の傾斜地にコンクリートスラブがSの字を描くように折り返すことで、その場の持つ自然環境と室内空間の整合性により住空間の用途を設定する手法を用いている。

コンクリートが方向性を持って折り返されるように、用途や機能も緩やかにズレながら連続する、いわゆるワンルーム空間のようなものである。

床材には、コンクリート素材と質感の似たタイルを床に使用することで、折り返される表裏の逆転を解決している。また、折り返し重なる部分には適度な開口を設け、上昇するごとに西側山手に後退していくリズムミカルな動きが空間を魅了している。

(森村政悦)

メ ガミヤマ ■目神 山の家

所在地 兵庫県西ノ宮市

施工 越智工務店

敷地面積 637.26㎡

建築面積 94.39㎡

延床面積 149.52㎡

構造規模 RC

竣工 2008年5月

育む場の風景

田中啓文 田中啓文総合建築研究所



大阪市内の小学校のメイン玄関を含む教室棟を改築し、既存のE L V棟につなぐ渡り廊下も合わせて整備されました。渡り廊下はスレンダーな円柱を持つ開放的な鉄骨造とし、手摺部材には、スチール製のリン酸処理パネルを用いました。リン酸処理パネルは、十分な強度と耐久性を備え、汚れ等も目立ちにくい素材であり、規則的なパンチング穴を空けてリズムカルで楽しげな印象を与えています。教室棟の道路側ファサードは、柱に打放しコンクリートのリブを付け陰影をつくり、リブの間は伝統的に水泳が得意なこの小学校を象徴するものとして、水を連想させるブルーに彩色しました。同様にブルーのガラスブロックを織り交ぜた階段室が、シンボリックな風景をつくっています。

(田中啓文)



■大阪市立鯉江小学校増築

所在地 大阪市城東区

建築面積 渡廊下 79.2㎡

教室棟 541.76㎡

延床面積 教室棟 1701.72㎡

構造規模 渡廊下 S、3F

教室棟 RC、3F

竣工 2007年3月

撮影 河合止揚

千里山・易の家

平尾和洋+早崎伸一/VIDZ



建築は光とともにありたい。まっすぐに伸びた大木のように。力まずそこにあり、風や陽光、大地と語り合っている。静だが、自立した気配と生命感を宿している。おおらかでいて、意思のある存在。

大阪・吹田の千里山の一角、小高い丘の最も高い場所に建てられた住宅である。「易」とは台上に玉をおき、その玉光が下方に放射する形をいう。玉光には、人の精気を盛んにし、豊かにする魂振りの働きがあるとされる。大木の下にいるかのごとく、日々、おおらかに、お天道様の動きを眺めながら過ごす人のための家である。

(平尾和洋)

■千里山・易の家

所在地 大阪府吹田市

施工 西村建築工房

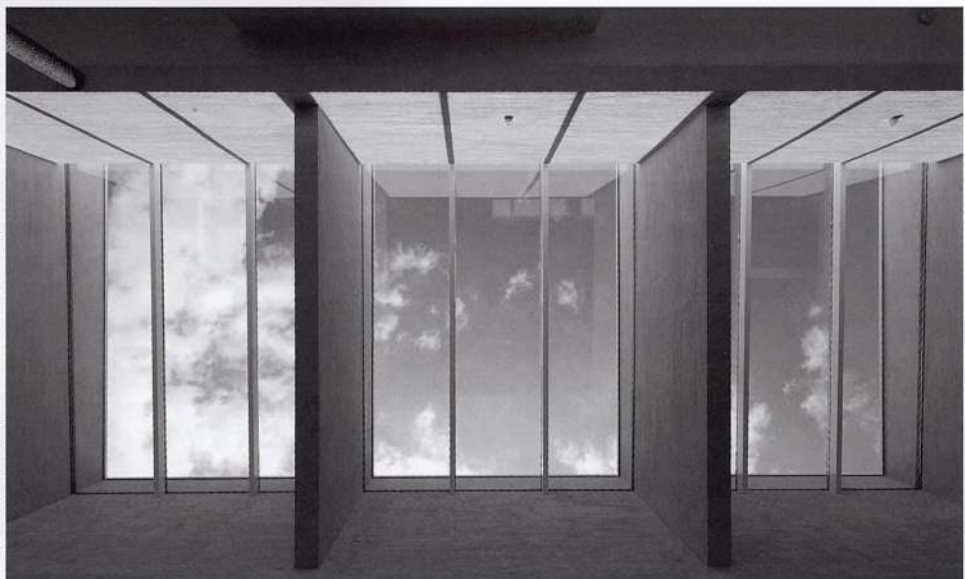
建築面積 86.85㎡

延床面積 141.92㎡

構造規模 W、3F

竣工 2009年7月

撮影 松村芳治



自然に溶け込むやすらぎの空間

植木秀典 東西建築サービス



診療所・デイサービスを併設した全室個室のユニット型ショートステイ施設である。

北には毘沙門天を祀る権現山を抱き、南には遠く広島市街を見渡せる高台に位置している。『年月とともに風合いの深まる施設』を目指し、外壁に大谷石や風合のある大版タイルを用いた。南北に長い敷地のため、フロア中央にコアを置き、各居室をつなぐ空間のすべてを、共同生活室としている。

ユニットケアの理念である“その人らしさを大事にする”ケア実現のため、一人ひとりの生活リズムを維持できるよう、居室前に個別ケアができるサブリビングを設けている。

各フロアには口腔ケア専用カウンターを設置するなど、質の高いサービスを提供するため、すべての設備について詳細な検討を重ねた。

(植木秀典)



■あすか療養センター

建築主 医療法人あすか 高橋 勲

所在地 広島市安佐南区

施工 清水建設 広島支店

建築面積 881.28㎡

延床面積 3018.17㎡

構造規模 RC、5F

竣工 2008年6月

撮影 柄松稔

光溢れる内外空間を享受する

吉村篤一+建築環境研究所

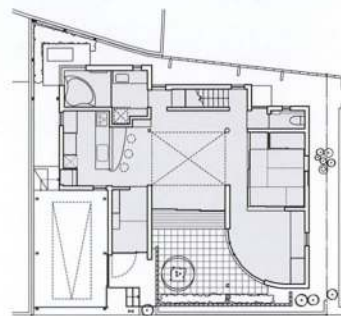


この家は、閑静な住宅地にある夫婦と子供1人のための住宅である。この周辺には同規模の住宅が建ち並んでおり、プライバシーを考慮しながらいかに外部空間を室内に取り込むかが設計のポイントとなった。南側の中庭に面した吹き抜け空間を全面ガラス張りとし、中庭をレンガ塀で囲うことにより周囲からの視線を遮り、開放的で光溢れる落ち着いた空間となった。

リビングは壁の仕上げを外壁と同じ素材で連続させることにより、内外空間のつながりをもたせることができた。

また中庭に面したフリースペースの平面にRの部分設けたことで、より広がりのある中庭を感じることができた。

(吉村篤一・奥野八十八・荒木麻衣子)



■下鴨の家Ⅱ

所在地 京都市
施工 SEEDS・CASA
建築面積 80.8㎡
延床面積 129.8㎡
構造規模 W、2F
竣工 2008年4月
撮影 大島勝寛

育ちのフロア

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所 十大塚謙太郎



この施設は、店舗・事務所・共同住宅から成る複合ビルの2階をコンバージョンした、大阪市内数例目のビルインフィル型認可保育所である。空間作法は、園長が目標とするきめ細やかなコーダイ保育の実現と、既存制約の積極的利用をテーマとし、保育士が働きやすい環境を整える事に徹した。

具象的な意匠は避け、園児の成長に合わせ、暖色から寒色に移るような年齢毎に色分けし、空間の穏やかな意味づけを行った。また、遊具や教材の頻繁な入替えに対応するため保育室の壁面収納を充実させた。

形態的な既存制約は、ベンチコーナー・穴蔵コーナー・読み聞かせコーナー・腰掛け段差等、子どもスケールの仕掛けとして活かした。それぞれの空間は子どもたちのお気に入り

の場所となっており、保護者や保育士の皆様にも好評を頂いている。待機児童解消の一端を担う一方で、用途変更は、法的な制約が多く、ビルインフィル型認可保育所が普及しにくい原因の一端も垣間見えた。

(中尾勝悦+大塚謙太郎)

■ソフィア南堀江保育園

建築主 社会福祉法人柳井会

所在地 大阪市西区南堀江

施工 森長工務店

改修面積 232.75㎡

竣工 2009年2月

撮影 スタジオライトクロス
安川 正

記憶を編集する

久保清一 アルキービ総合計画事務所



奈良五條の旧道に面する古民家の改修であり、一部に新築の住居部と車庫を計画している。庭の中央を占領していた既存家屋を撤去し、広々とした光庭を獲得した。その中庭を核として、敷地を囲むように長屋門形式で住居部と車庫を配列させた。このことで、主屋、蔵、離れ住居、車庫等が群として連続し、旧道にその歴史的様相を表出することとなる。この計画がまちなみ形成の一役になればと期待している。

(久保清一)

■五條百年民家

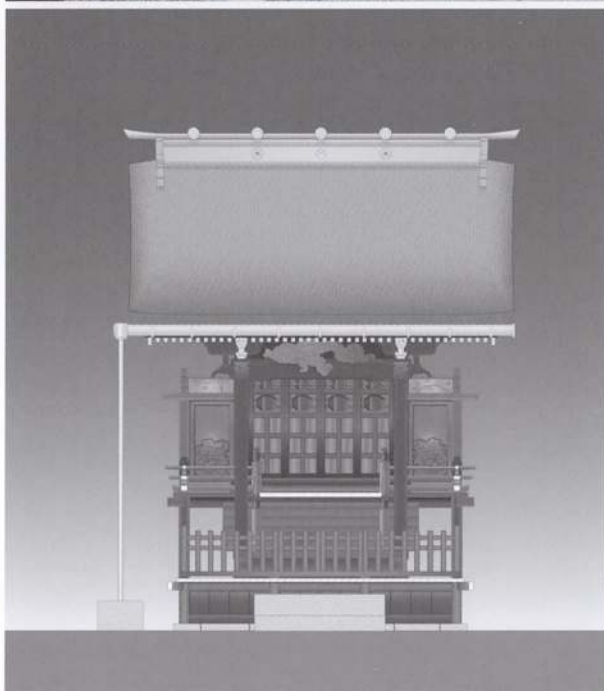
所在地 奈良県五條市
施工 尾田組
改修面積 127.67㎡
建築面積 430.08㎡
延床面積 448.96㎡
構造規模 W、2F RC、1F (車庫)
竣工 2007年4月
撮影 左崎晋吾

改修から文化財へ

長瀬博一 長瀬建築研究所



蠶織神社



蠶織神社西立図面

京丹後市の浦嶋伝説で有名な日本海に近い砂質地盤に建つ神社の大改修である。15世紀中頃、海に注ぐ河口近くの地から現在地へ遷座したという。旧社殿（今の蠶織神社）に加え1922年、現在の主社殿（網野神社）が新築された。4年後、丹後大地震で大打撃を受けたが再度修復され、小修理等を経て桧皮葺の屋根は雨漏りもひどい限界状況であった。今回の改修範囲は多岐に涉り、主社殿は桧皮葺をチタンに葺替え、蠶織神社は前回は踏襲し桧皮に葺替えた。共に屋根下地材や小屋組材の補強や取替、一部床組等の構造補強、鬼瓦新調と鋳金物全般、拝殿畳床を木床に、又避雷及び自火報設備を新設し、排水計画の整備から社務所、式場の修理まで及んだ。施主、職人共々、全力投球の取組の結果、「国の登録有形文化財」となった。

（長瀬博一）

■網野神社

所在地 京都府京丹後市網野町
字網野789

施工 藤堂、好井工務店

敷地面積 13,000㎡

建築面積 (屋根面水平投影面積)

社 殿 288.25㎡

蠶織神社 30.04㎡

延床面積 社 殿 126.94㎡

蠶織神社 7.61㎡

構造規模 W、1F

竣工 2008年12月

撮影 奥田興作

お化粧直し

稲垣元宣・稲垣和江 イナガキケンチクケンキュウジョ



北伊丹集合住宅 改修後



西淀川集合住宅 改修後

外壁改修はいかに外観を一新し、建物の魅力をUPさせられるのか、限られた条件、予算の中でイメージを膨らませるのが楽しい仕事です。この2件の賃貸住宅は、借り手が現地を見て「ここにしよう」と思ってもらえるファサードにというのが発注者からの要望です。

北伊丹の集合住宅は、旧街道筋の自治体から景観形成地区として指定されている立地にあり、現況建物はとてもオープンなつくりでした。景観やプライバシーを守る外観改修として、和風を意識しつつ現代的な感覚もとり入れた、木製ルーバーと色彩によるデザインです。

西淀川の集合住宅は、オーナーや住い手が建物に愛着を持てるようなファサードデザインです。白と黒を基調とするシンブルなデザインの中に、1階から3階までつながる、「TREE」を描きました。塗り替え後は近所の小学生をはじめ、まちの人たちにもなかなか人気の外観となったようです。(稲垣和江)



北伊丹集合住宅 改修前

■北伊丹集合住宅

所在地 兵庫県伊丹市

構造規模 W、2F

竣工 2009年3月

■西淀川集合住宅

プロデュース

リクレア・ライフエージェンツ

所在地 大阪市西淀川区

施工 創建

構造規模 S、3F

竣工 2008年8月

スキップ7

岸 一 アトリエJIGSAW



若い世帯をターゲットとした省エネ・省コスト住宅 スキップ7は、2×4工法のメリットを最大限に生かす、次世代型住宅の魅力を持つ展示場です。

その主な特徴は

- 1) 建築基準法で実現可能な2階建て住宅の中に、7つのフロアーを持つ。
- 2) 床面積約47坪、収納面積約42坪と、100%に近い大収納量空間。
- 3) 販売価格45万円/坪、施工床だと21万円/坪という、営業・設計・施工のノウハウ。

以上、このモデルはまさに住み手の創造力と感性を刺激する住まいです。

(岸 一)



■ブイハウス (小倉南区 モデルハウス)

所在地 北九州市小倉南区津田

施工 ブイハウス

建築面積 99.98㎡

延床面積 155.86㎡

構造規模 2×4工法、2F

竣工 2009年

撮影 磯部一博

空間の転換

池上 明 エーアイ アーキテクト スタジオ



移転に伴い近くのコンビニストアであった建物を歯科医院に改装することになった。電車からの視認性が高いロケーションであり、既存の大きな開口部を活かし、ガラス越しに待合いの椅子がリズムカルにシルエットとして浮かび上がるよう構成した。

待合室は濃い木目でシンボリックな受付カウンターを圧迫感のない開放的な形とし、ゆとりを感じるスペースとしている。受付側の壁に少し角度をつけ、より広がりを感じるよう構成した。オレンジ色の椅子がアクセントとなって空間にリズムと変化を与え、患者さんが明るい雰囲気でもウエイティングできるように演出している。

6台のチェアを設置した診察室はガラスのローパーティションで仕切り、患者さんのプライバシーに配慮しながら広がりのある空間としている。ガラスパーティションを支える

濃い木目のパネルが空間にリズムと変化を与え明るく清潔な診察スペースをイメージづけている。また、診察中は患者さんが仰向けになっている時間が長いため、天井に円形の掘込みを設けて変化をつけ圧迫感を和らげリラックスできる雰囲気を演出した。

(池上 明)

■幸歯会岡田歯科医院

所在地 豊中市庄内西町3-10-3

延床面積 170.2㎡

構造規模 S、平屋

竣工 2009年3月

撮影 稲住泰広

市中の居

岡崎善久 岡崎善久建築設計事務所



都島区のプロデュース会社のオーナーに古い4階建ての建物の一室にこの計画を提案してリノベーションした。

画一化されたワンルームを今後つくり続けていくのか？大阪は経済至上主義とはいえ……。残念である！もうそろそろ、生活文化としての人が住むための空間（生活すること）とは何なのか考え、心地よい質の高い「建築空間を創らなければならない」と思っている。

この計画は3.5m×7.2mとちいさい。「ちいさいすみか」のなかでの人間の行動を考えてみると、

- (1) 寝ること。
- (2) くつろぐこと
- (3) 食事すること。
- (4) 用をたすことである。

そして、生活する空間（寝る・くつろぐ）と生活サポートする空間（食事をする・用をたす）に分けて考えてみた。

今後は生活サポートする空間のなかの食事する空間、すなわち、ダイニングキッチンウエイトが高くなり台所する空間となっていくだろうと考えております。

間口3.5mを1/2に分割すると生活する空間（座敷）・生活サポートする空間（土間）として分けるが一室空間である。間仕切りを大きなマスによる障子で仕切り、障子を透して灯りと騒りと居心地のよさを演出してみた。

(岡崎善久)



■ちいさなすみか

プロデュース 盛都プランニング

所在地 大阪市都島区

施工 建築工事プロデュース

建築面積 23.6㎡

竣工 2009年6月

撮影 松本憲洋

地域の風景の核・鎮守の杜整備に参加

上谷重男 U建築企画室



行基に関わりがあると伝えられている昆陽寺が近くに建つ、この神社は伊丹市にとっても、地域にとっても数少ない貴重な縁を有する鎮守の杜として、人々に憩いの空間を提供している。

地域の人々に守り、育てられてきた杜・西天神社が老朽化したために、氏子による改築建設委員会が結成され、西天神社改築への道を歩み始めた。

結成から数年後、多くの人々から寄せられた浄財でもって、工事が始まり、完成に至った道程を振り返ってみると、鎮守の杜は“地域で愛され生きていた”と呼ぶに相応しいものであった。

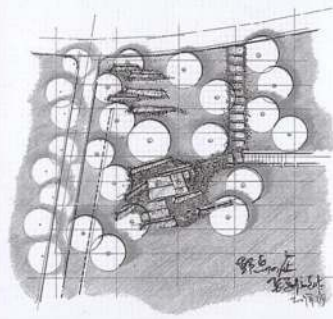
完成まで、氏子代表として様々は困難を乗り越えられた、今は亡き筒井豊氏への餞として締め括りたい。合掌
(上谷重男)

■西天神社改築工事

所在地	兵庫県伊丹市昆陽池
施工	網川工務店
敷地面積	6258.06㎡
建築面積	199.90㎡
延床面積	145.60㎡
構造規模	RC、1F
竣工	2008年8月

石彫石・野点の床

長谷川弘直 都市環境ランドスケープ



石彫石でつくる「野点の床」は、モミノキやカラマツの森の中に建つ別荘の庭園として造景した。ここでは敷地内に現存する数本のヤマモミジを取り込み、生かして創作した。「野点の床」の空間構成は京間の茶室サイズを規範として、茶の作法に則って配置構成した。敷石・立石・据石・手水鉢などは錆系御影石で厚みのある無垢材を用いた。床は本磨きとピシャン、立石・笠石は割肌と小叩きでノミ目をそのまま残した。造形的には石工によるきめ細かな手の痕跡と荒々しい野趣性を対比させ深みのある表情をつくった。庭全体の空間造景は、ゆるやかな起伏のある芝生の地形で築造し、四季を彩る草花やヒメシャラを主木とする樹木で配植した。石彫石で造る格調と緊張感あるなかに心を癒し安らぎを感じる心地よい時間・空間の風景を創造した。(長谷川弘直)

■野点の床

所在地 長野県軽井沢町
建築設計 吉羽逸郎／アイ・エフ
建築設計研究所
施工 第一建設
石工 佐々木悟
／吉田造園商事
竣工 2008年6月

季節を感じるホール

藤城義丈 徳岡昌克建築設計事務所



800人の園児を持つ幼稚園に於ける、西側公園の緑と東側運動場の桜が一体となり連なるような、開放性をもったホールづくりである。専門的な体操設備とコーチ陣を配する体育施設として、また発表や講演、式典といった園児をはじめ、先生方、父兄にとっても多様な利用を可能とするため、さや屋根やLow-eペアガラス等を利用しながら快適な大空間を実現している。子供たちは毎日の活動を通じて桜、新緑、紅葉、落葉といった季節の変化を感じながら成長している。(藤城義丈)

■玉川学園幼稚園

所在地 大阪府吹田市

敷地面積 6036.48㎡

建築面積 767.35㎡ (増築部分)

2259.48㎡ (全体)

延床面積 1892.85㎡ (増築部分)

4562.46㎡ (全体)

構造規模 RC、一部S、3F、B1F

竣工 2007年12月

撮影 名執一雄 (ナトリ光房)

無動力底面灌水緑化システム

塚口洋之 塚口明洋建築研究室



西宮市にある協立脳神経外科病院の増築棟を設計する際に計画した屋上リハビリ庭園である。

湿度を保ち断熱効果を持続する・豪雨時に貯水池として機能する・散水量を劇的に減らす・この三点で現存する薄層緑化システムと異なるものを作るため試行を重ね、高耐用絶縁緑化防水層と共に施工するスーパーフラットルーフによる無動力底面灌水緑化システムを完成させた。

全厚110mm、荷重130kg/m²の緑化層により、私の実験では月に1、2度蛇口をひねるだけで、屋上面の温度を約20℃下げ続ける。また、70ミリ程度の豪雨に対して市の計画排水量でカバーしきれない部分を貯水する機能を持つ。

屋上一面に広がるプールからの排水は全てオーバーフローによる。

(塚口洋之)

■西宮協立脳神経外科病院南館

所在地 兵庫県西宮市
施工 大和日昇緑化
建築面積 783.83m²
延床面積 2495.57m²
構造規模 RC、5F
竣工 2009年8月
撮影 河合止揚（上）
塚口洋之（下）

こへびカフェ
(水谷俊博+武蔵野大学水谷研究室)

〔外部仕上げ〕
屋根：構造用合板耐候性塗装 外壁：シナベニヤ耐候性塗装
開口部：木製建具（シナベニヤ仕上） 外構：（既存外構（ウッドデッキ）のまま）
〔内部仕上げ〕
床：ラワン合板、一部アクリルミラー板 壁：シナベニヤオイルフィニッシュ、バイン構造材表し 天井：シナベニヤオイルフィニッシュ、バイン構造材表し

BBプラザ美術館（岡田邦弘+黒川宗範）

〔外部仕上げ〕
外壁：（ロビー内部とも）燻し加工煉瓦透かし積（一部、スライス煉瓦貼り） 開口部：強化ガラスドア 銅製ドア
〔内部仕上げ〕
床：（展示室）ナラフローリング、（ロビー）磁器質タイル
壁：（展示室）クロスEP仕上 外壁：（ロビー）燻し加工煉瓦透かし積（一部、スライス煉瓦貼り） 天井：（ロビー・展示室）石膏ボードFEP仕上
〔その他〕
ロビー光壁建具：SUS建具 展示室光天井：光膜天井
収蔵庫：無機質系調湿材 各所木造作：不燃加工木練付材

上吉野の家（新居昭和）

〔外部仕上げ〕
屋根：カラーガルバリウム鋼板立平葺き 外壁：モエンサイディングの上、リシン吹き付け仕上げ 開口部：木製建具、アルミサッシ 外構：砂利敷き、シマトネリコ、モミジ、ブーゲンビリア、モッコウバラ
〔内部仕上げ〕
床：杉板（熱圧処理）t=40mm、米ぬかワックス塗り 壁：ビニルクロス貼り 天井：1階：2階床杉板t=40mm現し、2階：化粧野地杉板、登り梁現し 床：磁器質タイル300□（ホワイト） 壁：ルナモザイクタイル圧着貼り 天井：ケイ酸カルシウム板の上、NAD（非水分散形塗料）塗り
〔その他〕
床：磁器質タイル300□（ホワイト） 壁：ルナモザイクタイル圧着貼り 天井：ケイ酸カルシウム板の上、NAD（非水分散形塗料）塗り

螢池の家（高木秀晃）

〔外部仕上げ〕
屋根：アスファルト防水+押えコンクリート 外壁：着色ガルバリウム鋼板スパンドレル、アクリル系左官仕上材（フッコー：マデックコートHM） 開口部：アルミサッシュ 外構：モルタルコテ押え
〔内部仕上げ〕
床：杉板（本実加工）+浸透性保護塗装 壁：アクリル系左官仕上材（フッコー：マデックコートHM） 天井：現し
〔その他〕
ルーバー アルミルーバー

目神山の家（森村政悦）

〔外部仕上げ〕
屋根：コンクリート陸屋根 パラテックスC-3工法 外壁：化粧型枠コンクリート打ち放し仕上げの上、フェイスガードアウト水性吹付け 開口部：ステンレスサッシュ アルミサッシュ
〔内部仕上げ〕
床：タイル貼り 床暖房 壁：化粧型枠コンクリート打ち放し仕上げ 天井：化粧型枠コンクリート打ち放し仕上げ
〔その他〕
家具及び収納庫：ウェンジ練り付け オイル仕上げ

大阪市立鯉江小学校増築（田中啓文）

〔外部仕上げ〕
屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：吹付タイル 開口部：アルミサッシ
〔内部仕上げ〕
床：ホモニアス床タイル 壁：SPO塗装 天井：化粧石ニラボード 渡廊下、手摺、庇：溶融亜鉛メッキ銅板リン処理T2.3

千里山・易の家（平尾和洋+早崎伸一/MDZ）

〔外部仕上げ〕
屋根：FRP防水/コンパックR-3工法 外壁：樹脂モルタル下地スタッコ吹付/ベルアートSi 開口部：木製サッシ、アルミサッシ/マディオP 外構：コンクリート舗装、伊勢五郎太石、大磯砂利洗い出し
ケヤキ、ソヨゴ、シマトネリコ、フッキソウ他
〔内部仕上げ〕
床：アイアンウッド、恵那銘石、大磯砂利洗い出し 壁：スタッコ吹付/セラミソフトスタッコ、砂漆喰塗り/グランテール砂入、杉板型枠コンクリート打ち放し+クリヤー塗装、シナ小幅板OP、型枠再生材OP、恵那銘石積
天井：スタッコ吹付/セラミソフトスタッコ、砂漆喰塗り/グランテール砂入
〔その他〕
内部木製建具：ラワン合板OSCL 家具：ラワン合板OSCL、ブビンガムク材 内部階段：紀州杉丸太削り出し、タモ集成材換気 熱交換型全館換気システム

あすか療養センター（植木秀典）

〔外部仕上げ〕
屋根：アスファルト防水の上押えコンクリート 外壁：90×290せっき真タイル 開口部：アルミサッシ 外構：インターロッキング
〔内部仕上げ〕
床：無垢フローリング、長尺シート 壁：大理石、ビニルクロス 天井：寒冷沙ペキ塗、ビニルクロス、化粧石コウボード 外壁：太田石

下鴨の家II（吉村篤一+建築環境研究所）

〔外部仕上げ〕
屋根：耐摩塗装ガルバリウム鋼板 タテ平葺 外壁：ラスモル+可とう形薄付左官仕上げ 開口部：木製建具、アルミサッシ、スチールサッシ 外構：磁器質タイル、コンクリート砂利撒のうえ洗い出し
〔内部仕上げ〕
床：ナラフローリング、磁器質タイル 壁：ルナファーマー、和紙クロス 天井：米松ビーラー、杉小巾板、ルナファーマー
〔その他〕
玄関ボーチ床・中庭堀・一部内壁：レンガ・タイル

ソフィア南堀江保育園（中尾勝悦）

〔内部仕上げ〕
床：フローリング 壁：ビニルクロス 天井：タイガースクエアトーン

五條百年民家（久保清一）

〔外部仕上げ〕
屋根：和瓦一文字葺き 外壁：杉板 t=15mmオスモカラー塗装、モルタル+新漆喰塗り 開口部：木製建具、アルミサッシ
外構：花崗岩サビ石敷き、砂味洗い出し、オタフクナンテンシギゴケ他
〔内部仕上げ〕
床：杉板 t=15mmワックス仕上 壁：新漆喰 天井：ラワン合板 t=15mmカキシブベンガラ塗り

〔その他〕
ガレージシャッター：木製オーバードア

網野神社（長瀬博一）

〔外部仕上げ〕
屋根：チタン 屋根：チタン葺き 屋根：松皮葺き 外壁：松、一部に漆喰 開口部：格子建具（木製）等 外構：御影石及び砕石砂利、黒、白の玉石
〔内部仕上げ〕
床：松 壁：松 天井：杉
〔その他〕
鋳金物：銅製金箔品、銅製青銅仕上

北伊丹集合住宅・西淀川集合住宅（稲垣元宣 稲垣和江）

〔その他〕
木材保護塗料：ウッドロング・エコ

幸歯会岡田歯科医院（池上 明）

〔外部仕上げ〕
外壁：せっき質タイル貼り、マジックコートシルク塗（フッコー）
〔内部仕上げ〕
床：ビニ床タイル、ビニ床シート 壁：クロス貼 天井：クロス貼
〔その他〕
作り付家具 パーティション控柱、メラミン化粧板

ブイハウス（岸 一）

〔外部仕上げ〕
屋根：彩色スレート瓦 外壁：窯業系サイディング 開口部：樹脂アングルアルミサッシ 外構：（塙）穴あきブロック積み、（アプローチ）洗い出し仕上げ
〔内部仕上げ〕
床：フローリング 壁：ビニルクロス貼り 天井：ビニルクロス貼り

玉川学園幼稚園（藤城義丈）

〔外部仕上げ〕
屋根：カラーガルバリウム鋼板サンライト-GL RM80 外壁：マジックコート（フッコー） 開口部：PRO-SE70ES100FIX
外構：せっき質タイル300角タイル
〔内部仕上げ〕
床：スーパーフロアSSF 1500K4 壁：WE N7401ペイントブル 天井：スクエアトーンスクエアアート

西宮協立脳神経外科病院南館（塚口明洋）

〔その他〕
防水：ecotop（basic）緑化基盤：ココターフ

ちいさなすみか（岡崎善久）

〔内部仕上げ〕
床：Pタイル500角、ナラフローリングt=15mm 壁：クロス 天井：クロス

（第16回会員作品特集「私の空間作法」協賛広告）

株式会社 フッコー

■本社 〒406-0812 山梨県笛吹市御坂町下黒駒1611金川工業団地内 tel：055-262-2111（代） fax：055-262-9101
■大阪営業所 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-13-14 西田ビル9階 tel：06-6262-5885（代） fax：06-6262-5999
<http://www.fukko-japan.com>

御影公会堂

梅宮 弘光

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

所在地／神戸市東灘区御影石町4-4
設計／清水栄二
施工／大林組
竣工／昭和8年5月（1933年）
構造／鉄筋コンクリート造
規模／地下1階、地上3階
種別／会館・劇場

御影公会堂は武庫郡御影町の公会堂として、昭和8年（1933）に建設された。戦後の昭和25年（1950）、同町の神戸市編入後、神戸市御影公会堂となり今日に至っている。

よく知られるように、この公会堂は、野坂昭如の『火垂るの墓』の中で神戸大空襲の印象深いシーンに登場する。その姿は、のちの宮崎駿による同名のアニメ映画にも描かれている。また、阪神淡路大震災にも耐え抜き、頼もしい避難所として活用されたことも忘れられない。約1000名収容のホールは、昭和31年（1956）、三宮に神戸国際会館が竣工するまで神戸最大規模を誇った。

戦災で屋根のほとんどが焼け落ちたとはいえ、二度の災いをくぐり抜け、市民に開かれた公共空間という性格もそのままに、内外ともにほとんど当初の姿を保って今日に至っていることを思うと、その建築的価値とともに市民が共有できる歴史的意義を感じずにはおられない。平成13年（2001）には、モダニズム建築の保存を進める国際的活動ドコモモに呼応して行われた「関西のモダニズム建築20選」に選定されている。

■公会堂の建設と嘉納治兵衛

明治38年（1905）の摂津電気鉄道（現阪神電鉄）、大正9年（1920）の阪急電鉄神戸線の開通に続いて、昭和2年（1927）には阪神国道（現国道2号線）が開通。こうした交通インフラの整備により、阪神間は正から昭和にかけて住宅地として発展していく。御影の町は、石屋川の扇状地。背後に六甲山、浜側に灘五郷のひとつである中郷を控え、良好な住宅地として発展、町村制の実施により

明治22年（1889）に御影町が誕生する。公会堂建設の背景には、地域のこうした発展がある。

今日御影公会堂を訪れると、玄関を入った突き当たりの薄暗がりの中に置かれたほこりだらけの小さな胸像に、どれくらいの人が気づくだろうか。この人物こそ、公会堂建設最大の功労者、七代嘉納治兵衛その人である。その下の壁面に埋め込まれたブロンズ銘板には、当時の御影町長・安達儀一郎により、次のように記されている。「昭和八年四月御影公会堂建造新ニ成ル 規模宏大結構壮麗寔ニ本町ノ偉観タリ 初メ本町ニ於テ文化ノ進運ニ伴ヒ社会教化事業ノ発展ニ資スヘキ大集会場ノ設備ナキヲ遺憾トスルコト久シ 偶々嘉納治兵衛君此ニ見ルアリ鉅貨ヲ納レラルタルニ因リ町会ノ決議ヲ経テ之ヲ本会堂造営ノ費ニ充ツ其ノ徳澤功績ノ顕著ナル洵ニ欽仰ニ勝ヘス 永ク之ヲ記念スヘク壁ニ刻シテ以テ後昆ニ頌フ」。

彼の寄付なくしては公会堂は建たなかった。『御影町誌』（御影町役場、1936年）によると、総建設費が当時の額で24万円、そのうち嘉納の寄付金と寄付金利子の合計が約22万9000円。実に、全体の95パーセントが彼の出資によったことになる。

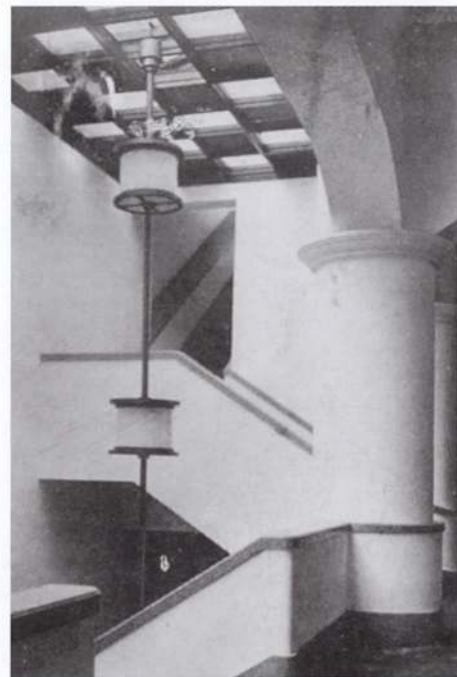
嘉納治兵衛は当時の実業家にしばしば見られるタイプ。すなわち、政財界人と数寄者の両側面を併せ持った人物であった。前者においては、灘商業銀行頭取、兵庫県議会議員、全国酒造組合連合会会長などを務めた。後者においては、鶴堂・鶴翁の号に象徴されるように、石州流本庄宗泉に学んだ茶人であり、中国銅器・陶器等の蒐集に努めた文人であっ



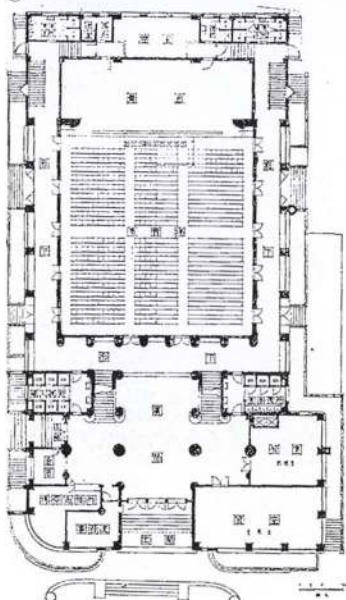
①外観（現在）南西角から南面ファサードと西立面を見る。



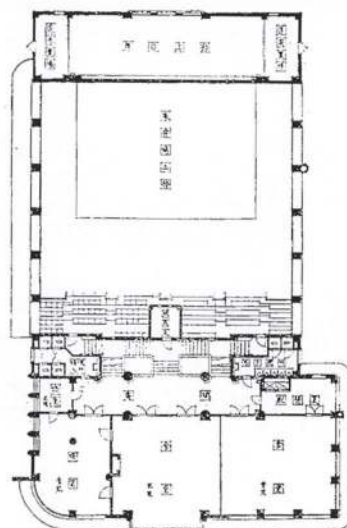
②



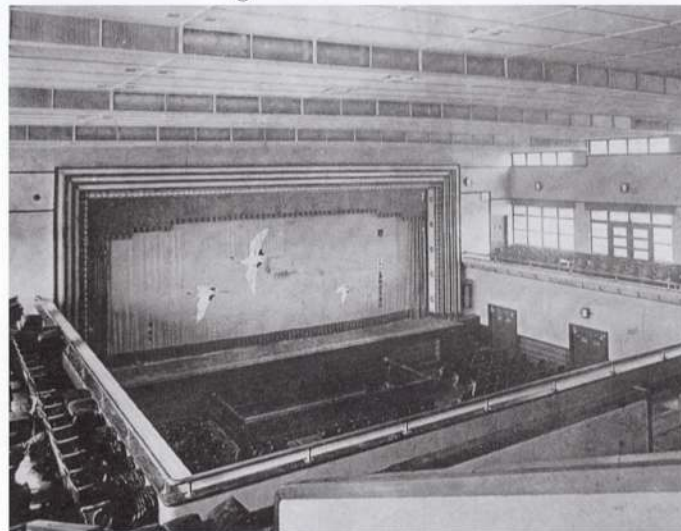
③



1階平面図



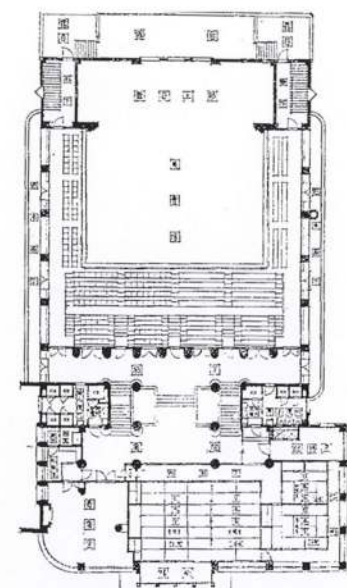
3階平面図



④



地下室平面図



2階平面図

- ②外観
- ③階段
- ④集会場



⑤西立面（現在）

石屋川に面した西立面。向かって右から左へ、諸室ブロック、大ホール、舞台と各立面にそれぞれ異なる表情が与えられている。



⑥3階旧食堂内部（1991年頃）

窓際に机が置かれていてわかりにくいですが、床から天井までフルハイトのガラス・カーテンウォール。ただし、腰高に手摺りが付く。



⑦北西方向から見る（1991年頃）

ファサード側の印象とはまったく異なる印象。



⑧階段吹き抜け（1991年頃）

階段室の吹き抜けとトップライト。当初は市松模様の天井が張られていた。照明器具も当初の印象を残しながら変更されている。



⑨1階ホール（現在）

正面に嘉納治兵衛の胸像と銘板。



⑩屋上から見たファサード装飾（1991年頃）

ファサードのガラスカーテンウォールに付けられた縦桟頂部を屋上より見る。ゴシック様式のアール・デコのアレンジとでも言えそうな意匠。



⑪屋上展望台（1991年頃）

建物各階の南西隅を上下に貫くシリンダーが屋上に突出して展望台を構成する。

た。中国青銅器の世界的コレクションを誇る白鶴美術館は1931年に彼が設立したものである。

■設計者・清水栄二

公会堂の設計を依頼された清水栄二（1895-64年）は、武庫郡六甲村の生まれ。大正7年（1918）に東京帝国大学建築学科を卒業している。同期には通信省営繕課で将来を嘱望されながら夭折した岩元禄、1年先輩には竹中工務店で活躍する鷺尾九郎、1年後輩には東京・大阪の両中央郵便局の設計で知られる吉田鉄郎、2年後輩が分離派建築会（石本喜久治、滝沢真弓、堀口捨己、森田慶一、矢田茂、山田守）のクラスという世代である。

卒業後の清水は、大阪の民間建設会社に務めたあと、大正10年（1921）、招かれて神戸市役所に入る。大卒の技術者としては神戸市初と伝えられる。大正12年（1923）、営繕課が設置されると初代課長。折しも神戸市は産業や港湾の長足の発展にともない人口が急増しつつある時期。彼は多くの特徴ある鉄筋コンクリート造小学校を設計した。昭和元年（1926）には神戸市を辞し、事務所を自営。御影町とのかかわりは、1923年（大正12）に町役場の設計をした頃にさかのぼる。このときの建設委員には嘉納治兵衛も名を連ねていたから、それ以来何らかの縁があったのかもしれない。

彼が設計した小学校校舎が、建て替えによってことごとく失われた今日、神戸市内に現存する彼の作品は、この御影公会堂以外では、魚崎公民館（東灘区）、甲南漬資料館「武庫の郷」（旧高嶋平介商店、東灘区）、ワシオ外科（旧尻池公民館、長田区）が主なものである。ちなみに、甲南漬の高嶋平介も、公会堂建築委員のメンバーであった。

■往事の御影公会堂

竣工当時、『建築と社会』に発表されたときの記事に掲載された平面図から、往事の様子をうかがうことができる。

地階の南側の「公衆食堂」と「厨房」は、現在の「御影公会堂食堂」に引き継がれている。その奥には「椅子倉庫」「楽器置場」「傘下足預所」「暖房室」などのほかに「球戯室」「碁将棋室」などがある。このように、当時はどちらかといえば裏方を担う空間だったが、戦後は低廉な経費で借りることのできる結婚式場に改装され、大いに活用されたという。2階と3階にはそれぞれ配膳室があって、2基のダムウェイターが地下の厨房と結んでいる。各階貸し室での飲食に対応していたのであろう。3階は「食堂」となっているが、

むしろ宴会場的な性格だったかもしれない。西面には装飾の暖炉が付き、南面は床から天井までの大型ガラス開口。当時においては、展望レストランといった趣であったか。

前出の『御影町誌』には、開館の昭和8年（1933）6月から10ヵ月間の各部屋の使用許可回数データが記されている。全386の使用許可のうち、第1位は2階の「日本室」3号、4号で57回。ふたつの「食堂」はそれぞれ39と43。少々意外なのが「大集会室」つまり現在の大ホールで46回となっている。

■異なる相貌を見せる立面

この建物の全体を捉えると、大きく3つのかたまりからなっている。第一は、国道2号線に面した南側ブロックで、地階から3階まで主に貸し室として使われている部分。第二は、窓のない箱状の北ブロックで、舞台とフライタワー。そして第三はこのふたつの間の空虚、つまりオーディトリウムである。それでは、これら3つのブロックにどのようなかたちが与えられ、どう組み合わせられているか。

公会堂は角地に建っている。南側に国道2号線、西側に石屋川。つまり、この建物は二方向から見られる存在である。清水栄二はそうした立地条件を十分に意識したと思われる。まずファサード。一見したところ左右対称の四角い建物に見える。中央の玄関、その上層部を連続して覆うガラス面、その上に張り付けられたゴシック風の縦棧状の装飾。これらが一体となって建物の中心性を主張している。しかし、軒の水平線に沿って目を左、つまり西方に移していくと、端まできたところで西面に回り込ませ、水平だった庇を直角に曲げ、袖壁として1階まで下ろしてファサードの連続にストップをかけている。正面はここまで、というわけだ。しかし、そのストップしたところはすでに西側の面。視線は正面から西立面に誘導されてきたことになる。

■開口部の多様性

西側の立面意匠は、建物の主要な3つのかたまりに対応している。南側の貸し室部分には額縁のような太めの棧に縁取られたガラス開口。中間の大ホール部分は、舞台に向かって下がっていく天井高がそのまま現されて、屋根の稜線が階段状になっている。この部分は、ファサードにおとらず興味深い。「遊歩廊下」と称する外廊下を囲む長方形の枠によって立面を上下に分割して3層構成になっている。この部分は当時最先端のテクノロジーであった優秀船（外国航路の大型客船）を模したと伝えられる。そして北側のかたまりには、上下を貫く縦に細長い窓。これはもともと壁

から三角形に飛び出した、プリズムを縦にしたような窓だったが、現在は失われている。

御影公会堂の立面の豊かさは、いくつかの異なるタイプが組み合わせられた開口部の意匠によるだろう。半円アーチや丸窓。これはどちらかというと古い様式主義のモチーフといえる。前出のプリズムのような三角断面の窓。これは日本でも1920年代前半に流行った表現主義風建築で好まれたもの。そしてファサードに見られる大きな全面ガラス。とくに階をまたがってその全面を覆うやりかたは、デッサウのパウハウス校舎（1926年）などと比べるには無理があるとしても、当時としては最新のものといえる。

こうした窓の意匠をみると、それを特徴づけているのが、たんに開口のかたちのみならず、それを縁取っている枠、あるいはその延長としての庇の意匠にあることに気づく。窓枠は、様式主義が消えていくのと同時に退化してきた部位だが、この公会堂ではその一歩手前の意匠を見ることができる。

■モダニズム潮流の中の御影公会堂

西洋の近代建築との呼応関係という点では、E.メンデルゾーン（1887-1953）の1920年代の作品、ベルリン日報新聞社（1921年）やヴァイヒマン・シルクハウス（1922年）などが連想される。また、マイアミのアルデコ建築の中には、同じようなたたずまいを持つものがあるという点、意外に思われるかもしれない。全体に茶色いこの建物の印象は、トロピカル・デコとはほど遠いからだ。しかし、これをミント・グリーンやフラミンゴ・ピンクといったシャーベット・トーンに塗り分けたところを想像してみると……、そこはもうマイアミなのだ。しかし、清水がそれを真似たわけではないことだけは確かである。というのも、マイアミのこのテの建物ができたのは御影公会堂より後、1930年代の後半から40年にかけてのことだ。歴史様式が希薄になっていく過程で、世界で同時的に現れた現象の類似性とみることができる。

郊外住宅地としての阪神間における文化のパトロネイジは、都心における企業活動におけるそれとは異なっていた。それは地域住民の福利厚生や教育、またパトロンたち自身の文化生活とのかかわりの中で展開された。阪神間の学校、病院、美術館には、そうした出自のものが少なくない。御影公会堂は、そうしたパトロネイジのもとで建築家が存分に腕を振るった成果であり、地域のアイデンティティを今日に、いや未来に伝える象徴的な存在といえよう。

（うめみや ひろみつ／神戸大学大学院准教授）

自然豊かな淀川河川敷で

私は現在淀川区に住んでいるのだが、このまちは、古くは大阪の台地を形作った淀川の流れと交通の要所として歴史ある神崎川、この2つの川に挟まれている。淀川の地は昔から「川とともに生きるまち」と言っていいたいだろう。

淀川河川敷は今、自然の状態に再生する試みが行なわれている。多様な生態が観察される干潟の再生や、既存のコンクリート護岸面を芝生斜面に改修するなど、都会の中であって160数種類の野鳥が集まる自然豊かな環境になろうとしている。

昔は「野遊びの場」であったこの河川敷を舞台にして、みんなが集えるなにかが出来ないか、そう考えたのが今から8年前のことである。

ゲル（モンゴルの移動式住居）を芝生の上に数基組み立てての国際交流の催しを企画し行ったのだが、多くの人が自然の中で一日中楽しんだ思い出に残る催しになった。

こんなことがきっかけで、ゲルに興味を抱くようになり、以後ゲルを所有し、まちなかの公園や広場などでゲルを活用した催しをするようになった。今では他からの依頼も多く年間30回以上の利用回数である。

まちづくり活動に 取り組む人々。

08

NPO 法人もみじ（国際交流）
味方 慎一（あじかた しんいち）

このまちが好き

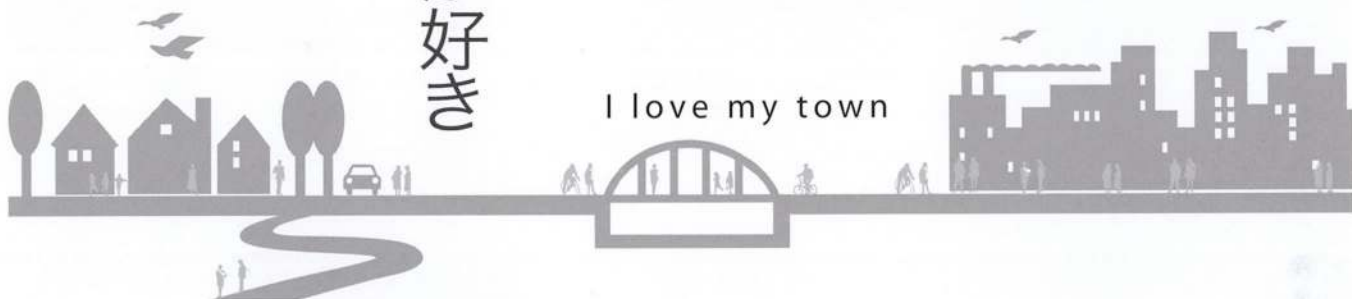


写真1
名村造船所跡のイベント会場にて、ゲルの中で写真展示とマッサージを開催



写真2
港区の築港にある6階建ての屋上に組み立てたゲル。期間限定のゲルカフェとして利用した。



写真3
小学校の授業で、30人の子供たちにゲルの内部でモンゴルを紹介。



写真4
淀川の河川敷にて、建築科の学生たちによるゲル組み立て体験。対岸は梅田あたりのビル群。



世界には移動する文化（狩猟や牧畜を生業としている民）の生活手段として、テント構造の建物を住いにしている民族が現在も存在している。その中でもゲルは、構造的にも空間的にも非常にすぐれた移動可能な建物だと思う。

改めてゲルとは・・・モンゴル語で「家」という意味である。標準的な広さは直径6メートルでほぼ16畳程度の円形ワンルーム、家畜とともに移動しながら生活をしているのがモンゴルの遊牧民である。組み立ては5～6人の手によって1時間弱で完成してしまうし、解体に要する時間はわずか30分程度である。骨格部分は木製、ヒツジの毛を固めたフェルトは断熱や保温材としてカベや屋根材に、また馬や駱駝の毛を編んで縄などに、家畜のものを駆使して建築材料にしている。移動を可能にするために軽量（総重量で200kg程度）で、かつ家族の手によって組み立て可能なシンプルな部材構成となっている。

こうしてかれら遊牧民は家畜とともに家ごと周期的に動き続けるのであるが、常に移動するわけなので土地は日本のような財産にならない。彼らにとっての財産は、家畜と身につけられる宝石など移動することを前提にした「もの」の社会であり、最少のモノを最大に使う文化である。

世界中、家の形態は民族ごとに様々であるが、この形態の違いは環境と直結していることがわかる。自然環境とともに生きる人々の考え方が「家」に現れていると言えるだろう。定住文化と移住文化、これは全ての面（暮らし方や価値観）で異なり、この明快な異文化に接して「ゲルに、はまってしまった」私である。遊牧文化というのは自然の摂理にのっとった生活形態をとり、自然からのめぐみを受け、また厳しい自然の洗礼を受けつつ生きている。自然と共に生きる姿勢に自然への傲慢さはない。

河川敷でくみだして今も交流の場として使っているのだが、自然環境の異なる日本においてもゲルは、私にとって有意義な空間を提供してくれている。

景観から景観まちづくり、 そして、 まちづくりへ



●講師からのメッセージ

- ①景観形成の柔軟なコントロール手法として、守るべき事項である「規制の基準」を示すだけでなく、奨励する事項である「創造的基準」を示すことが有効ではないか。
- ②デザイナーとユーザーが話し合うプラットフォーム、協議システムが必要である。
- ③まちづくりでは、合意形成や課題設定が必要な場面がある。しかし、合意形成を必要とせず、対話により人のつながりを生むことができる「交流の場」も大事である。

■日本建築学会近畿支部環境保全部会
主査：三好庸隆（武庫川女子大学教授）
幹事：伊丹康二（大阪大学大学院助教）
上山 卓（株式会社コープラン）
北尾靖雅（京都女子大学准教授）
高岡伸一（大阪市立大学都市研究
プラザ特任講師）
八木康夫（立命館大学准教授）

日本建築学会近畿支部環境保全部会では、平成20年度から、「なぜ日本の住環境は美しくないのか」という問題意識のもと、重要と考えられるテーマを取り上げ、そのテーマについて先端的な取り組み、研究をされている講師をお迎えし、公開研究会を行っています。

● 第6回公開研究会

第6回となる公開研究会は、「景観から景観まちづくり、そして、まちづくりへ」について、近畿大学理工学部教授の久隆浩氏を講師に迎えて開催しました。（開催日：2009年7月30日、会場：大阪市立大学 文化交流センター・大セミナー室）

なお、本公開研究会は、(社)日本建築協会の後援を得ています。

久先生は長年、地域の住民の方々とまちづくりをどのようにすすめてゆくことができるのかについて実践的に取り組まれてきました。美しい景観・住環境を形成するためには、住民同士の対話から、景観形成にどのような可能性があるのかについて、ご講演をいただきました。

● 講演

景観問題は今や景観だけの問題ではなく、まちづくりのひとつとしてとらえられている。吹田市では景観まちづくり条例と言い、函館市は10年以上前から景観まちづくりという言葉を使っている。

1. 組織がつくる美しい景観

京都府南丹市美山町では、地域協議会を組織化し、「日本一の田舎」をめざして活動をしている。この地域協議会という組織があるからこそ、茅葺屋根の民家がつくり出す美しい景観が保たれていると言える。

2. コンセンサス形成から景観形成へ

国土交通省の「美しい国づくり政策大綱」には、「美しい国づくりのための取り組みの基本的考え方」として、「(2) 地域ごとの状況に応じた取り組みの考え方：美しさに関するコンセンサスの状況に応じた施策展開が必要である」という一文がある。「コンセンサスの状況」とは、(a) 悪い景観の地域（景観阻害要因）、(b) 優れた景観とだれもが認める地域（例えば美山町のような風景）、(c) 住民のコンセンサスが得られていない普通の地域、の3種類である。(c) は「生活景」とも言われ、日本ではほとんどがこの「生活景」である。このような地域では、政策大綱にも示されているとおり、コンセンサスを形成するプロセスを経る住民主体の地道な取り組みが重要である。

「コンセンサスを形成するプロセスを経る住

民主体の地道な取り組み」とは、まさにまちづくりである。優れた景観を維持している美山町も、住民にとっては「普通の地域」だったはずであり、そこでコンセンサスが得られると、優れた景観になる。

3. 箕面新都心地区「かやの中央」の景観形成

大阪府箕面市のかやの中央のまちづくりを紹介する。

3-1 コンセンサスづくり

かやの中央では、「生活デザイン検討委員会」を組織した。景観デザインを検討するのではなく、生活のデザインをするという姿勢が表れた組織名称である。生活像を実現するために空間はつくり、生活が空間・景観をつくりだすという考え方により、この委員会では空間像を語り合うまに生活像を語り合い共有することに力を注いだ。その成果として「みんなが得するまちづくり作法集」（図1）をまとめた。「みんなが得するまちづくり作法集」には、29の作法を示している。この作法集の作成にあたっては、アレグザンダーのパターン・ランゲージを参考にした。

実現したい生活像

- この街に暮らしながら働いて、街に根を張って生活していきたい。
- 住む場所と職場が近くにあることで生まれた余裕の時間を、身の回りの物事（育児・介護等）やまちづくりの活動に使いたい。
- 住宅と職場や店が一緒にある建物を通り沿いに並んでいることで、昼も夜も人気があって、さびしくない街にしたい。
- 事業を起こす時にサポートしてくれる仕組みがあるとうれしい。

まちづくり作法 No.13

暮らしと職場が共生する。

具体的な提案の例

- 主な道路沿いでは、低層部が店舗、上層部が住宅など、複合的な建物利用をする。
- 住宅と職場の近接により、街並みの変化や街の活気をつくる。

図1 「みんなが得するまちづくり作法集」例

3-2 景観形成の柔軟なコントロール手法

かやの中央地区では、景観形成のためのコンセンサスづくりを行うとともに、柔軟なコントロール手法を展開した。すなわち、独自の景観誘導手法として必ず守るべき事項である規制の基準と、奨励する事項である創造的基準を設けた。創造的基準では、「みんなが得するまちづくり作法集」を積極的に活用し、29項目の作法に配慮すると記した。

運用方法は、事業者に「都市景観形成地区現状変更行為等届出書」の提出、およびまちづくり作法集のどの項目にどのような提案を行ったかを書く「作法集に基づく提案シート」の提出が義務づけられる。その後、協議を通じて、創

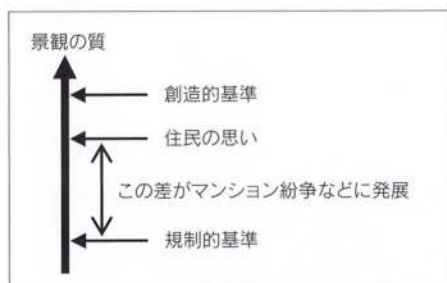


図2 創造的基準と規制的基準

造的基準の適合が判断される仕組みである。

国は、いかに守らせるかという規制的基準を作ることに注力しているが、図2に示すように規制的基準を設定する場合は景観の質が低いところに設定せざるを得ず、事業者の思いとなりがちな規制的基準と住民の思いにギャップがあるため、マンション紛争などに発展しやすくなる。守っても守らなくてもいい基準は意味がないという意見もあるが、書き留めておくことに意味があると考えている。

4. まちづくりからまち育てへ

4-1 かやの中央のまち育て活動

かやの中央の商業施設「ヴィソラ」では、公共施設の整備が条件とされており、市民活動センターが整備された。そこで「まち育て交流会」を毎月開催している。そのほか、千里川などの定期的な清掃活動や万燈籠の開催など、まち育てのイベントを開催している。市民活動センターという拠点があるから、住民による活動が続いている。

4-2 合意形成は必要か

デザイナーとユーザーが話し合うプラットフォーム、協議システムが必要である。

かやの中央では、プラットフォームがあったから建物と川の堤防のデザインが調整できた。プラットフォームがないために意見調整ができない事例は多い。

まちづくりに合意形成は必要であるが、実際、合意は難しい。例えば豊中市のまちづくり協議会は、いまだに組織したのは3ヵ所だけである。まちづくり協議会を組織したいと考えている地域は10以上あるが、合意形成が難しいことは住民も知っているの、役員という重責を考えると腰が引けてしまうというのが実情である。もっと気軽にまちづくりを実践できないかと考えている。

法哲学者の井上達夫氏は、以下のように述べている。

「考え方が違う人が多いにもかかわらず、結果的に暮らしている。合意はあえてしなくてもいいのではない。合意形成は大変だ。コストもリスクもある。敵意を生むこともある。なのに、なぜ合意形成にこだわるのか。合意するというよりは、対立を残しておくほうが、合意への努力をし続けるので、そのほうがいいのでは

ないか。違いを認め合いながら、社会で生きていくことのほうが重要ではないか」

4-3 合意形成のための手法

合意形成を目標とする場合、市民主体で議論を行う市民会議や市民委員会という方法と、市民と行政双方で議論する審議会や委員会への市民参加という方法がある。この2つの方法は、まちづくりの段階や目的に応じて使い分ける必要がある。また、合意形成を目標としない交流の場という手法もある。

5. 「交流の場」がつくる美しい景観

5-1 場と組織

合意形成を目標とせずに、住民など多様な人が意見交換をする「交流の場」が重要であると考えている。美山町の地域協議会は組織であり、かやの中央のまち育て交流会は「場」である。一般的に、地域にはすでに様々な組織がある。地域に「組織」をつくることを提案すると、既存組織との関係などを明確にする必要が出てくる。新たな組織をつくるのではなく、「場」をつくるのが大事だと考えている。

交流の場では、定期的に集まって意見交換をすることで、住民の想いが共有できたり、つながりが生まれやすくなる。地域の特効薬にはならない。漢方薬のようにじわじわと効いてくるものである。これまでの経験では、このような場をつくって1年ほどで様々な住民の動きが出てくる。

5-2 平野の町づくりを考える会

「平野の町づくりを考える会」を紹介する。この会は、会長も、会則も、会費もない。ただし、ほろ酔いサロンに参加することという条件だけがある。そして、ほろ酔いサロンに参加した人が、その場、その時間だけ「会員」になる。活動内容は、面白いことをいい加減にやる。面白くないことはしない。しかも、いい具合にやる。自分たちが本当に興味を持って取り組めるテーマを厳選し、一人ひとりが持続可能なエネルギー配分で取り組めるようお互いが心掛ける。無理をしない。ほろ酔いサロンでは、月1回「おもろ地」に集まり、酒を酌み交わしながら歓談する。提案がおもしろければ、提案者を中心に企画が展開される。学生が提案を持ち込んで、それに賛同した住民と一緒に実現したこともある。

時間はかかるかもしれないが、一人ひとりが自分の気持ちからまちづくりに参加し続けられるような下地を育ててゆこう、というのが会の活動の核的な部分である。

5-3 議論から対話へ

物理学者D・ボームは、その著書『ダイアログ』の中で、以下のように述べている。

「対話においてはいかなる課題も設定せず、いかなる有益な事柄も達成しようとするべきでは

ない。有益な目的やゴールを達成しようとするなり、何が有益なものかという想定が生まれる。そうした想定が対話を狭めてしまう。対話の目的は、物事の分析ではなく、議論に勝つことでも意見を交換することでもない。いわば、あなたの意見を目の前に掲げて、それを見ることなのである」

都市計画は、課題があるところから始まる。私は、課題がないところから、対話を始めることが大事じゃないかと考えている。今、そのような交流の場を20地区以上で実践している。

今までの考え方では、この井戸端会議の意味や意義はなかなか理解できないと思う。しかし、今は対話により人のつながりを生むことが大事だと考えている。合意形成が必要な場面もあるし、課題設定が必要な場面もある。+αで「場」を設けようということである。

そういうことを通して、普通の景色が、生活



景になるのではないかと考えている。

● 質疑応答

Q1. 鉛がないと動かない人がいる。創造的基準を定めてもうまくいかないことが多いのではない。

——鉛がないと動かない人は、なにをしても動かない。かやの中央では、5%ほどの建物の色調が合っていない。その割合が徐々に下がっていきいという考え方である。

ルールを守らせるには、(1)規制(鞭)、(2)誘導(鉛)、(3)啓発という3つの方法があり、(3)啓発が大事だと考えている。(1)と(2)は外からの圧力がなくなると守られなくなるが、(3)は持続的である。

Q2. 普通の町で、モチベーションを高められることはできるのか。

——「モチベーションが高い地域」ではなく、モチベーションが高い人を探しあてることが大事だ。地域に元気な人は必ずいる。その人をサポートしていくようにしている。

Q3. 住民たちは、自分たち自身モチベーションがいつまで持続するのかという不安を持っている。

——現場では、大きな夢と小さな成功を持つとういつも言っている。合意形成や課題解決と言わないほうがいい。自分たちの体力に合わせて、夢を小さくして、少しずつ実現するよう

江副 敏史

—EZOE SATOSHI—



学歴
1980年 京都大学工学部建築学科卒業

経歴
1980年～株式会社日建設計

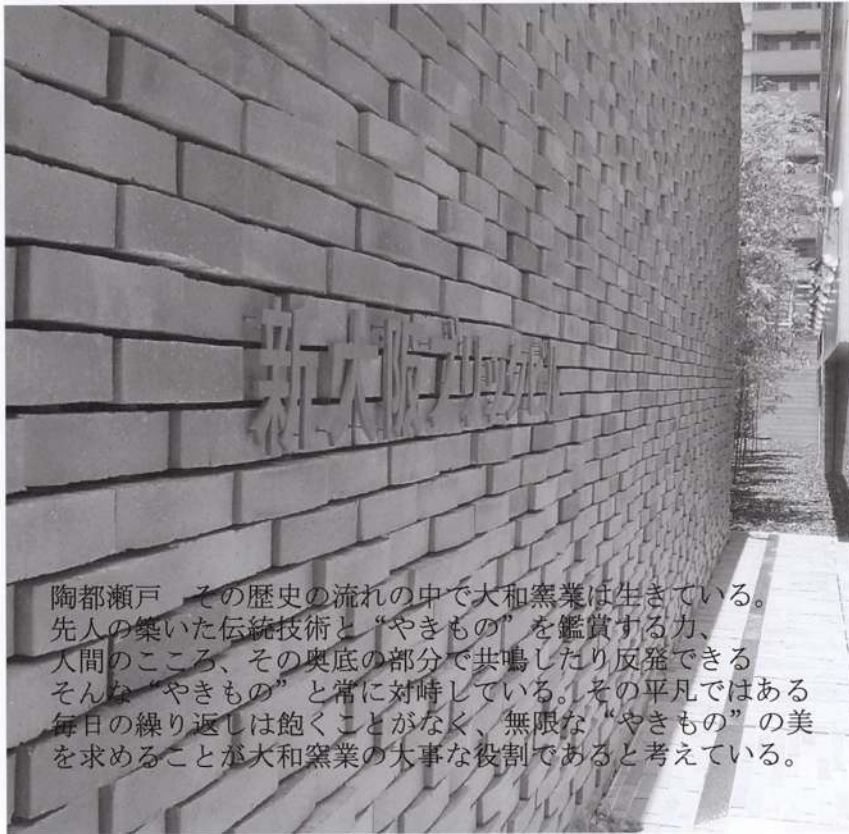
受賞歴
1997年 日本建築学会作品選奨
2007年 日本建築学会作品選奨
BCS賞
JIA関西建築家大賞
2008年 BCS賞
2009年 日本建築学会作品選奨

普通の裏側

江副敏史さんの建築は、質感溢れるレンガや木によって強く印象付けられている。一方、そうした素材によって形づくられる空間は、確かに建築表現の主旋律になっているものの、その背後に忍ばせている「建築の骨格」にもうひとつの主題が隠れているのではないか。そして、その骨格なる部分は実にシンプルであるところに核心があると感じた。2009年日本建築学会作品選奨を受賞した大阪弁護士会館を案内して頂いている際、江副さんは、細長いプランの片隅で「EVを降りた時、一番きれいな場所につれて行ってあげたい」と語っていた。

EVを降りた時、一番きれいな場所につれていきたい。こんな単純な事を実現するのに、様々な事が考えられている。透明感のあるガラスボックスは、制作上ガラスの最大厚さでもある25mmのフロート板ガラスを用いて構成される。厚板のガラスは、開口部の上下二辺支持を実現しサッシの縦材を消去し、ガラスの制作幅から2.7mの構造スパンを導き出す。それは小さな室が連なって配置される弁護士会館のプログラムとリンクする。直射日光を受ける南側は、外周部を逆梁として、ペリメーターゾーンの空調ユニットを床下に設置すると共に、構造フレームをプランの外側に押し出す事で、天井から延びる水平な庇と下方への障害の無い視線を獲得する。自立した構造フレームは、存在感のある備前焼のタイルで覆われ、ガラスボックスは不思議な浮遊感を帯びる。タイルは、コの字型に焼き、両側から2つを合わせる（[]）事で柱と梁を覆い、表現的には「構造体を覆う化粧材」としてではなく、組積造の見え方を意識したディテールとなっている。「石の建築と、石貼りの建築の違いはコーナー部に目地があるかないか」という事だが、「コーナー部に目地の無い、石貼りの建築」は、レトリック上では現代における組積造、石の建築を実現している。こうして、あのEVホールの風景が出来上がっている。このように、江副さんの建築は、非常にシンプルな着想を軸として、プランとディテール、骨格と表皮が同時並列的に存在し、その相互関係が建築に説得力を持たせているようである。「大阪弁護士会館」以外にも、「兵庫芸術文化センター」「新大阪ブリックビル」を案内して頂いた。それぞれの建築において江副さんが語る言葉、描くプランは、時に拍子抜けするほどシンプルである。兵庫芸術文化センターは、劇場建築特有の複雑なシークエンスを廃し、共用部ロビーを中心とした、明快なアクソメ的なプランを実現している。新大阪ブリックビルに至っては、どこにでもあるような水平連窓のテナントオフィスの可能性を追求している。重厚なレンガの隙間に絵巻物のように展開される大阪の景色がとてもきれいだった。特殊なプログラム、特殊なプランニングが無くとも、厳選された材料と丁寧な納まりによってこれだけの空間が獲得できる事は「建築表現の幅」について示唆に富む。その意味からすると、新大阪ブリックビルは江副さんの建築の特徴が最も現れている建物のひとつかもしれない。雑談の中で、若い頃はよく横文彦のディテール集を穴があくほどみて勉強したという話があった。なるほど、横さんの建築は特殊なプログラム、特殊なプランがなくても、ワンランク上質な建築表現を獲得出来る可能性を有している。一方、だからこそ問われ、浮かび上がる建築の骨格がある。現代におけるシンプルなプランとは、ひとつの模範として水平展開されるような代物ではなく、普通の裏側への眼差しを強く要求される厳しい批評の場であると感じている。

写真撮影 河合止揚
聞き手 米津正臣(竹中工務店)



陶都瀬戸 その歴史の流れの中で大和窯業は生きている。
先人の築いた伝統技術と“やきもの”を鑑賞する力、
人間のこころ、その奥底の部分で共鳴したり反発できる
そんな“やきもの”と常に対峙している。その平凡ではある
毎日の繰り返しは飽くことがなく、無限な“やきもの”の美
を求めることが大和窯業の大事な役割であると考えている。

新大阪ブリックビル 設計：(株)日建設計

こころの深い部分で結ばれている“やきもの”

DAIWA

YAKIMONO ATELIER

大和窯業株式会社

□本社・工房

〒489-0037 愛知県瀬戸市東古瀬戸町4番地

TEL:0561-82-5158 FAX:0561-82-8216

E-mail daiwa-seto@if-n.ne.jp

□東京営業所

〒164-0001 東京都中野区中野3丁目47番13号

第2愛和ビル1階

TEL:03-5328-5070 FAX:03-5328-5080

E-mail daiwa-tokyo@if-n.ne.jp



大阪弁護士会館
設計：日建設計
アゴラブリックス 大型陶板

agorabrix



国代耐火工業所

営業本部：港区麻布十番2-14-11 TEL. 03-5484-9246

大阪：大阪市中央区平野町4-6-16 TEL. 06-6229-9246

名古屋・札幌・福岡

www.agorabrix.co.jp



For Precious Life

株式会社 INAX 関西統括支社

大阪市西区新町1-7-1 INAX大阪ビル 〒550-0013

TEL:06-6539-3500 (代表)

INAXホームページ <http://www.inax.co.jp/>



大阪弁護士会館

特別注文品(テラコッタブロック)

神戸市における「特別用途地区：大規模集客施設制限地区」の建築制限

鷲尾真弓

神戸市都市計画総局建築指導部建築安全課指導係長

人口増加に伴う市街地の拡大を前提とした今までの都市計画の考え方を転換し、都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかけることにより、高齢者も含め多くの人が暮らしやすいコンパクトなまちを実現していく必要がある。このため、平成18年には都市計画法等が改正され、広域から多くの人を集め、道路などのインフラや周辺環境に大きな影響を与える大規模集客施設について、無秩序な立地を抑制することで、まちづくりの観点から適正な立地を確保することとなった。

具体的には、大規模集客施設が無秩序に立地すると集約型の都市構造への転換が困難になることや、交通が集中することで住環境の悪化や工業の利便に支障をきたすおそれがあるため、第二種住居地域・準住居地域や工業地域においては立地が制限され、商業系以外では準工業地域のみが規制の対象外となった。しかし、準工業地域は多様な用途を許容する地域であるものの、当該地域への大規模集客施設の立地が都市構造に大きな影響をおよぼす場合もあるため、各都市が地域の土地利用の状況に応じて、特別用途地区等の活用による規制を検討することとなった。

大規模集客施設に対する規制の考え方

神戸市では、第4次神戸市基本計画等に基づき、自然環境と調和し、人口や都市機能の均衡がとれた都市創造のため、多核ネットワーク都市の形成を目指し、都市の核となる都心・副都心等の中心に商業・業務施設の誘導を図っているところである。

平成21年2月における神戸市の大規模集客施設の立地状況は、約70%（57店）が商業及び近隣商業地域に立地し、準工業地域は約15%（12店）となっている。平成12年の大規模小売店舗立地法（大店立地法）の施行後の出店状況を見ると、出店店舗31店のうち約32%（10店）が準工業地域に出店、店舗面積約67haのうち約40%が準工業地域に

集中、他の用途地域に比べて多くなっており、法施行後に準工業地域への出店が急増している。一方、準工業地域における土地利用状況を見ると、半分が工業の利用となっているため、工場の操業環境への配慮が必要である。また2割強の土地は住居の利用となっており、住居系の用途地域と隣接している場合も多い。平成19年の用途地域見直しにおける準工業地域から他の用途地域への変更は住居系が91%となっており、土地利用転換の状況も含めて、住環境への配慮も必要となっている。

以上のことから、神戸市では、大規模集客施設の立地については、準工業地域においても特別用途地区の指定とその条例化によって、適正に誘導する必要があるとの考えに至った。

特別用途地区の都市計画決定と条例化

神戸市ではこれまで、特別用途地区として「文教地区」のみを指定していたが、平成21年6月に都市計画の変更を行い、準工業地域（約2,680ha）のうち約1,078haを新たな特別用途地区「大規模集客施設制限地区」に指定した。なお、準工業地域のうち、他法令により用途制限されている区域や、商業系用途地域と一団の商業・業務地を形成していることや、駅から徒歩圏内にあること等の要件を満たした区域については指定していない。

そして同年9月25日に「神戸市民の住環境等をまもりそだてる条例」（住環境条例）を改正し、建築基準法第49条に基づき、大規模集客施設制限地区内での建築制限の規定を定めた。これにより、その制限規定が建築確認の審査対象となった。

なお大規模集客施設制限地区に係る規定は、既に土地を確保している事業者等の既得権利の保護への配慮が必要なことから、都市計画法改正時と同程度の周知期間を設け、平成23年4月1日からの施行としている。

条例による制限内容

住環境条例では、建築基準法別表第2（わ）項に掲げる劇場、映画館、演芸場若しくは観覧場又は店舗、飲食店、展示場、遊技場等の用途に供される部分の床面積が1万㎡を超える建築物を「特定大規模建築物」と定義し、

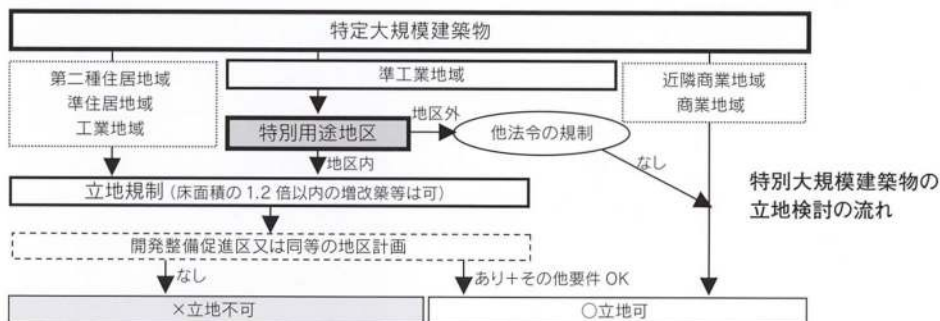
大規模集客施設制限地区内においては、これらを原則として建築できないこととしている。

ただし緩和措置として、個々の立地計画が都市基盤や土地利用、周辺環境への影響を踏まえ支障がないと判断される場合—都市計画法に定める「開発整備促進区」と同等の内容の地区計画が策定され、特定大規模建築物の整備による商業その他の業務の利便の増進を図るため一体的かつ総合的な市街地の開発整備を実施すべき区域であり、かつ地区整備計画が定められている区域においては特定大規模建築物が地区整備計画の内容に適合するものであり、市長が交通上、安全上、防火上、衛生上支障がないと認めるもの—については、建築を可能としている（条例第18条の3第2項）。

改正条例施行によって既存不適格となる特定大規模建築物についても、一定の緩和措置を規定している。増改築は、①増改築後、基準時の敷地面積に対する建ぺい率及び容積率が指定の数値を超えない②増築後、全床面積の合計が基準時の1.2倍を超えない③増築後、不適格部分の床面積の合計が基準時の1.2倍を超えない④一定の範囲を超える用途変更を行わない—のすべての要件を満たすものについて実施可能としており（条例第18条の2第1項）、大規模の修繕・模様替えは、用途変更を行わないものについて実施可能としている（条例第18条の2第2項）。一方、既存不適格建築物の用途変更は、建築基準法施行令第137条の18第2項に規定する範囲内について実施可能としている（条例第18条の4）。

あわせて、建築物の敷地が特別用途地区の内外にわたる場合の措置についても規定しており、敷地の過半が特別用途地区に属するときには、建築物の全部についてこれらの規定を適用し、これに該当しないときには適用しないこととしている（条例第19条）。なお、これらの規定に違反した場合は罰則として50万円以下の罰金が科せられることとなる（第40条）。

これにより、準工業地域についても大規模集客施設の適正な立地誘導が可能となったが、準工業地域等の用途地域等のあり方は、次期基本計画の策定にあわせて検討していく予定である。（わしお まゆみ）



高支持力鋼管杭

横幕 清

JFEスチール(株)建材センター建材技術部

建築物の既製杭基礎においては、その合理化を図る上で、1柱1杭化を目指す開発が進められてきた。当社も、杭1本当たりの許容支持力が大きく期待できる高支持力杭の開発に取り組んできており、現在では、集合住宅においては15階建て程度まで、倉庫においては5階建て程度までの規模において、1柱1杭で対応できる状況になった。

つばさ杭工法

「つばさ杭工法」は、鋼管杭の持つ大きなねじり強度を活かし、杭体に回転力および圧入力を付与しながら直接地盤中に設置するものである。杭体の先端には、2枚の半円形状の鋼板（先端翼）を杭軸方向に直交する面に対して一定の角度を有するように設けてある（写真1）。先端翼は、杭体の回転に伴う杭軸方向への推進力によって施工性を向上させる機能、杭先端面積が拡大されることによって大きな先端支持力を得る機能を有している。先端翼径は、杭径の1.75～2.5倍である。

適用寸法は、杭径：φ318.5～φ1,200mm、最大施工深度：60mまたは杭径の130倍である。施工機械は、通常、φ600mm程度以下では3点式杭打機、φ700mm程度以上では全周回転機を用いる。

なお、つばさ杭工法は、完全無排土であるとともにセメントミルクを使用しないため、施工現場周辺や地下水への影響を最小限に抑えた、環境に配慮した技術である。

Super KING工法

「Super KING工法」は、地盤中に設置する鋼管杭の先端部に杭径よりも外径の大きな根固め球根を設けることによって高支持力を得ることを狙った。杭体と根固め球根との一体化を図るため、杭先端部の外周面にはらせん状の突起（平鋼または鉄筋）を、内面には鉄筋による支圧リングを有する（写真2）。根固め球根の外径は、杭径の1.25～2.0倍で



写真1 つばさ杭の先端部



写真2 Super KING工法に用いる杭の先端

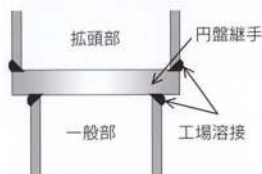


図1 拡頭構造（つばさ杭工法）

ある。

適用寸法は、杭径：φ400～1,200mm、最大施工深度：74m（IB方式・砂地盤）、66m（IB方式・礫地盤）、65m（PB方式）である。

施工には3点式杭打機を用いる。施工方法は、インサイドボーリング（IB）方式およびプレボーリング（PB）方式の2通りがある。両者は主に施工性によって使い分けられ、前者が施工深度40m程度以上、後者はそれ以下の条件に適用する。

IB方式では、杭体の中空部に掘削ロッドを挿入し、掘削ロッド先端に取り付けた掘削ビットより掘削液を噴出しながら土砂を泥土化させ、杭体を回転沈設する。次に、掘削ビットを拡張し、根固め液を噴出しながら拡大根固め球根を築造する。

PB方式では、掘削ビットより掘削液を噴出しながら掘削・泥土化した後、杭周固定液を噴出して掘削土砂と混合攪拌する。次に、拡大根固め球根を築造した後、杭体を設置する。

地盤から決まる鉛直支持力推定式

長期作用に対する地盤から決まる許容鉛直支持力 R_a の推定式は次式で与えられる。

$$R_a = \frac{1}{3} \{ \alpha \bar{N} A_p + (\beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c) \psi \}$$

α ：先端支持力係数

β ：砂質地盤における杭周面摩擦係数

γ ：粘土質地盤における杭周面摩擦係数

$\bar{N}$ ：杭先端支持力の評価に用いる平均 N 値

（ $\bar{N} \leq 60$ ）

A_p ：杭先端の有効面積（ m^2 ）

$\bar{N}_s$ ：杭周面の砂質地盤の平均 N 値

（ $\bar{N}_s \leq 30$ ）

$\bar{q}_u$ ：杭周囲の粘土質地盤の平均一軸圧縮強度（ kN/m^2 ）（ $\bar{q}_u \leq 200 \text{ kN/m}^2$ ）

L_s ：杭周囲の砂質地盤の層厚の合計（ m ）

L_c ：杭周囲の粘土質地盤の層厚の合計（ m ）

ψ ：杭の周長（ m ）

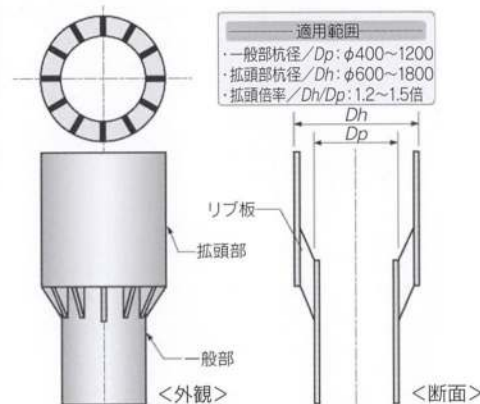


図2 拡頭構造（Super KING工法）

表1 支持力係数

工法	α	α^*	β	γ	備考
つばさ杭	132	825	2.00	0.50	杭径508mm以下、先端翼径=杭径×2.5
		528	2.00	0.50	杭径600mm以上、先端翼径=杭径×2.0
Super KING	196	619	4.11	0.61	杭周固定液あり、球根径=杭径×2.0
			1.82	0.36	杭周固定液なし、球根径=杭径×2.0

すなわち、杭体の表面積に地盤パラメータおよび支持力係数を乗ずることによって許容鉛直支持力が推定できるようになっている。

つばさ杭工法とSuper KING工法の国土交通大臣認定に基づく支持力係数 α 、 β 、 γ の値を表1に示す。ここで表中の α^* は、杭体の閉鎖断面積あたりに換算した先端支持力係数の最大値である。旧建築基準法第38条に基づく建設大臣認定工法の多くは α^* （ $=\alpha$ ）=250である。これら従来の杭工法に対し、つばさ杭工法とSuper KING工法の先端支持力は飛躍的に大きく、地盤条件によっては、つばさ杭では13,000 kN/本、Super KING工法では15,000 kN/本程度まで期待でき、1柱1杭で対応できる建築物の範囲は広がった。

拡頭（杭頭部の外径を拡大した）構造

杭を高支持力化した結果、杭本数の減少に伴い、杭1本が負担する荷重も大きくなる。

杭基礎には、死荷重・活荷重等の鉛直荷重に加えて、主に地震の作用（水平荷重）によって杭頭部付近では大きな曲げモーメントが生ずる。鋼管杭の杭頭部の曲げ剛性を高めるには、板厚を増加させることが一般的であるが、高支持力杭では必要に応じて拡頭構造を採用することとした。

つばさ杭工法では、施工に伴う回転トルクに抵抗できるように平板継手としている（図1）。一方、Super KING工法では、杭体中空部の確保および杭に浮力を作用させない目的で、円周方向に等間隔にリブプレート設けた構造としてある（図2）。

最後に、つばさ杭工法は、つばさ杭工法技術協会の会員各社、Super KING工法は、Super KING工法技術協会の会員各社との共同開発の成果であることを付記しておく。

（よこまく きよし）

▶改正省エネルギー法をめぐって 講習会開催

改正省エネルギー法が平成22年4月から施行され、中小規模建築物（延べ床面積300㎡以上2000㎡未満）に対する省エネルギー措置の届出義務が生じることとなる。

（財）建築環境・省エネルギー機構は2009年12月から2月まで、全国9か所で設計者・設備技術者・施工者らを対象に、住宅を除く建築物について省エネルギー基準の解説を行う。受講料は27,000円（テキスト代・消費税を含む）。申し込み方法、申込用紙、最新の状況は<http://www.ibec.or.jp/kousyu/>に掲載。

▶室内環境学会2009年度総会

室内環境の研究に医学・工学・農学・環境学など様々な分野の研究者や技術者が学際的に取り組む室内環境学会は、前身の室内環境研究会の発足以来今年で15年を迎えた。

本年度は総会テーマ「過去を振り返り未来を守る：室内環境への学際的アプローチ」に沿って、シンポジウムや市民公開講座、NPO・企業プレゼンテーションや機器展示、分科会報告が開かれる。室内環境学会URLは<http://www.siej.org/>一般参加者も募っている。

会 期 2009年12月13日(日)～15日(火)
会 場 近畿大学本部キャンパス11月ホール
東大阪市小若江3-4-1
会 費 室内環境学会正会員5000円
非会員8000円・学生3000円
協賛の日本建築協会会員は5000円

●特別シンポジウム「居住空間における人の健康の保護と維持増進」

日 時 12月14日(月) 14:30～17:40
会 場 近畿大学本部キャンパス11月ホール
大ホール
講 師 内山巖雄・京都大学名誉教授／筏
義人・奈良県立医科大学教授／川
井秀一・京都大学生存圏研究所所
長／高野裕久・国立環境研究所／
吉田論史・厚生労働省健康局

▶Japan Home & Building Show

住宅・建築関連専門展示会として今年で31回目を数える（財）日本能率協会主催の「ジャパンホームショー2009」「サステナブル建築技術展2009」は、95000人の入場者を想定して東京ビッグサイトで開催される。

会 期 2009年11月11日(水)～13日(金)
10:00～17:00
会 場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)

▶「枚方宿まちづくりフォーラム」 開催

かつて「鍵屋」をはじめ東海道57次56番目の宿場町として、また、淀川の舟運の中継港として栄えた枚方宿に「枚方宿地区まちづくり協議会」が設立されて10年目となる今年、さらなるまちづくりの推進と、枚方宿でのまちづくりの取り組みを全国へ情報発信するため、これからのまちづくりを考えるフォーラムを開催する。

主催は、枚方宿地区まちづくり協議会(TEL 072-841-1221内線959)ほか2団体。

問い合わせは同協議会へ。

日 時 2009年11月28日(土) 13:30～16:30
会 場 市立枚方宿鍵屋資料館
枚方市堤町10-27
TEL・FAX072-843-5128

●講演

「これからの歴史的風土を活かしたまちづくり」越澤明(北海道大学大学院教授)
「枚方宿のまちづくり活動と今後の展望」高田昇(立命館大学教授)

●パネルディスカッション

パネラー／竹内脩(枚方市長)、小林郁男(都市計画家協会関西支部長)、田中誓子・宮地なおみ(枚方宿地区まちづくり協議会)、京阪電鉄経営統括室。コーディネーター／高田昇

▶大阪歴史博物館「見学会 昔の観光地を旅する 2009」

戦前の大阪の人がどんな「日帰り行楽」を楽しんでいたのか、追体験をする大阪歴史博物館の企画。昔の名所図会や案内書を参考にし、現地見学会をする3回連続講座。

講 師 船越幹央・伊藤純(歴博学芸員)
参加費 1000円(3回通し、保険料含む)
定 員 30名(事前申し込み)
申込み 往復ハガキに氏名・住所・電話番号、返信面に返信先を記入の上、11月14日までに下記へ。ハガキ1枚につき2名申し込み可。
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
大阪歴史博物館「昔の観光地」係

●事前講座

2009年11月29日(日) 13:30～15:30
大阪歴史博物館4階第1研修室

●現地見学

①「上の太子・中の太子」

12月6日(日) 12:30～17:00
近鉄南大阪線「藤井寺」駅改札口集合

②「須磨」

12月13日(日) 13:00～17:00
神戸市営地下鉄「妙法寺」駅改札口集合

▶第8回公開研究会 「電線類地中化」

日本建築学会近畿支部環境保全部会の公開研究会は、まちづくりをライフワークとし、地域に入り込んで実践的に取り組んでいる高田昇氏を講師に迎える。

日 時 2009年11月25日(水)

18:30~21:00

会 場 大阪市立大学文化交流センター

大セミナー室(大阪駅前第二ビル内)

テーマ 「電線類地中化 できる理由 できない理由—電柱大国からの脱皮」

高田昇(立命館大学教授・COM計画研究所代表・NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク理事長)

資料費 500円

定 員 36名

申込み 大阪大学大学院助教・伊丹康二

e-mail itami@arch.eng.osaka-u.ac.jp

▶「あすなろ夢建築」応募要領

大阪府から、第19回大阪府公共建築設計コンクールの応募要領が発表された。このコンクールへは日本建築協会も協賛している。

募集区分・設計条件・提出作品の条件など詳細は、大阪府公共建築室「あすなろ夢建築」URL: <http://www.pref.osaka.jp/koken-keikaku/asunaro/index.html>に掲載中。

なお、最優秀作品になった提案は、その趣旨を活かして現地に建築する予定である。

課 題 「豊かなときを刻む」～大阪府営富田林楠住宅集会所～

資 格 大阪府内の工業高等学校(工科高等学校)・短期大学・高等工業専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒

登 録 2009年12月10日17時まで

作品受付 2010年1月12日～1月15日

審査委員 狩野忠正(大阪芸術大学芸術研究科客員教授)ほか5委員

▶第16回大阪ヨーロッパ映画祭

1994年11月にパトリス・ボワトー氏の呼びかけのもとスタートした大阪ヨーロッパ映画祭は、以来、未公開のヨーロッパ映画最新作の中でも「芸術性、社会性に優れた深みある作品」を厳選して上映するという一貫したスタイルで関西発の文化祭典として定着してきた。第16回大阪ヨーロッパ映画祭来日ゲストはベントゥーラ・ボンズ、ヤン・デクレール、ヤノシュ・クルカ、ローナ・ブラウン氏ら。

上映映画として「隣人」「神父ダース」「リトル・ソルジャー」「美しく生きて～アニエラと犬～」「両替からはじまる物語」など。

<http://www.oeff.jp>に詳しい。

会 期 2009年10月31日～12月3日(木)

会 場 ABCホール、シネ・ヌーヴォ、キッズプラザ大阪、クレオ大阪中央、サントリーミュージアム「天保山」、イーマビルほか

▶「ART BOX NAGOYA 2009」開催

竹中工務店名古屋支店設計部員の作品を集めて、「ART BOX NAGOYA」が、12月初めに開催される。今年のテーマは、「維新 ISHIN」。政治や経済の大きな変わり目に、設計部員は何を見つめ、どう変化していこうとしているのかを表現しようという企画である。

会 期 2009年12月1日(火)～12月5日(土)
10:00～18:00(最終日は16:00)

場 所 名古屋市中区錦1-18-22

名古屋ATビル地下1階

内 容 (A)ART BOX-30cm立方にこめる「ものづくり」の想い

(B)MASS ART-設計部員全員の集合作品

入場料 無料

▶UNIT STRUCTURES —同質なる異質—

千葉市内に住む彫刻家こんのげんさんは、同質なる異質を求めて木彫の個展を開催中。

会期 2009年10月21日～

11月21日(土)

10:00～19:00

会場 Frame & Gallery

Jam Framing Service

千葉県市原市五井5505

作品 材質:赤松+漆+顔料

作品数:約20点



▶「新発見!なにわの考古学2009」

会 期 2009年11月11日(水)～12月27日(日)
9:30～17:00(金曜日は20:00まで)

会 場 大阪歴史博物館 8階特集展示室

大阪府中央区大手前4-1-32

観覧料 常設展示観覧料内の大人600円、高大生400円

中央区難波宮ができる以前の地層から出土したガラス玉鋳型、ふいごの羽口、砥石など手工業生産関連の遺物。中央区瓦屋町遺跡から

出土したベンガラ、陶器・鋳物・土人形など。難波宮跡出土の新羅土器。

約400点が展示される。

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶青蓮院 国宝「青不動」ご開帳

青蓮院の国宝「不動明王二童子像(青不動)」



国宝「不動明王二童子像(青不動)」
11世紀
青蓮院門跡蔵

は、高野山明王院の赤不動、三井寺の黄不動とともに日本三不動のひとつで、平安時代の最高レベルの絵仏師によって描かれた礼拝画像の中でも最上位にあたる。

「青不動」を、平安創建以来はじめて京都・東山の青蓮院門跡において公開中。庭園は室町時代の相阿弥の作と伝えられる築山泉水庭、江戸時代の小堀遠州作と伝えられる霧島の庭、大森有斐作と伝えられる好文亭前庭、宸殿前の苔の庭など四季の移ろいが楽しめる。

会 期 2009年9月18日～12月20日(日)
9:00～17:00[昼夜入れ替え制]
18:00～22:00[夜間ライトアップ]
12/5は休み
12/16～12/20は17:00まで

場 所 天台宗青蓮院門跡

京都地下鉄東西線「東山」下車5分

拝観料 大人・寺院1000円、中高生400円

小学生以下は父兄同伴で無料

青蓮院のご開帳記念絵ハガキ4枚組の希望者は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶「生誕120年 小野竹喬展」

小野竹喬は14歳で京都に出て、竹内栖鳳に師事した。＜竹橋＞の雅号を用いた初期には西洋絵画への関心が強く見られたが、1922年から翌年にかけての渡欧を機に「線」による表現へと方向を変える。やがて南画への憧れを強め、戦後は象徴的な表現へと変化して、最晩年には墨彩画に挑戦している。

竹喬の生誕120年にあたる今年、代表作100点余りと素描約50点により、生涯を回顧する。

会 期 2009年11月3日～12月20日(日)

9:30～17:00

月曜休館(11/23は開館、翌11/24は休館)



奥入瀬の溪流 1951年 東京都現代美術館蔵

会場 大阪市立美術館(天王寺公園内)
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
観覧料 1200円、高大生900円
中学生以下無料
展示 《島二作》(早春・冬の丘)《冬日帖》
《樹間の茜》、10点の連作の
《奥の細道句抄絵》ほか
招待券は日本建築協会(TEL.06-6946-6981)へ。

▶「神話～日本美術の想像力～」

平城遷都1300年を記念して、明治から大正期



「浦島図」山本芳翠 (1893～95年)
岐阜県美術館蔵 10/29から展示中

にかけて描かれた洋画・日本画による神話劇・歴史画を展覧し、近代日本絵画の形成を辿るとともに、日本人の美意識の源流を探ろうとする展覧会。

会期 2009年10月24日～12月24日(木)
9:00～17:00(金・土は21:00まで)
休館日は11/16、11/24、11/30、
12/7、12/14、12/21
会場 奈良県立美術館 TEL 0742-23-3968
奈良市登大路町10-6
入館料 1000円、高大生700円、中小生400円
展示 高橋由一《日本武尊》青木繁《日本武尊》
本多錦吉郎《羽衣天女》河鍋曉斎《天の岩戸 天宇受売命の踊り・手力男命岩戸開き》
小林古径《神崎の窟》ほか
招待券は日本建築協会(TEL.06-6946-6981)へ。

▶ヴェルナー・パントン展

デンマークに生まれたヴェルナー・パントン(1926～1998)はポール・ヘニングセンやアルネ・ヤコブセンと出会い、世界の家具メーカーと協働して、プラスチック一体成形という世界初の手法で、流れるようなフォルムを実現したパントン・チェアなど多くの名作を送り出し、前衛デザイナーの旗手としてその地位を確立した。

本展は50年代半ばから70年代半ばの作品にスポットを当て、家具、照明、テキスタイル、模型、ドローイング、映像など約150点を展示する。

会期 2009年10月17日～12月27日(日)
11:00～19:00(金・土は20:00まで)
月曜日休館(祝日の場合は翌火曜日)
会場 東京オペラシティアートギャラリー
東京都新宿区西新宿3-20-2
入場料 1000円、高大生800円、中小生600円

▶シアトル美術館所蔵 「美しきアジアの玉手箱」

1933年に設立されたシアトル美術館の中核は、アメリカ西海岸で最大級を誇る東洋美術コレクションである。本展では、この中から精選された約100点が展示される。

日本美術では、鎌倉時代の仏教絵画「地獄草紙断簡」「浦島太郎絵巻」、本阿弥光悦と俵屋宗達合作「鹿下絵和歌巻」、屏風絵「鳥図」が里帰りする。中国美術では、陶磁器、青銅器、玉器、銀器、漆器など。そのほか韓国、東南アジア、インドなどの逸品を紹介する。



五美人図 葛飾北斎 文化年間頃
Photo: Susan Dirk

会期 2009年9月19日～12月6日(日)
10:00～17:00
(金曜日とルミナリエ期間中は19時)
休館日は月曜日(祝日の場合は開館)
11/24は休館
会場 神戸市立博物館(078-391-0035)
神戸市中央区京町24番地
入館料 1300円、高大生900円、中小生500円
詳しくは<http://seattle-kobe.jp/>で。
招待券は日本建築協会(TEL.06-6946-6981)へ。

▶「ボルゲーゼ美術館展」



ラファエロ・サンツィオ《一角獣を抱く貴婦人》
1506年頃

イタリア、ローマ市北東部の広大なボルゲーゼ公園に位置するボルゲーゼ美術館は、ボルゲーゼ家歴代のルネサンス・バロック美術の宝庫といわれている。

カラヴァッジョやベルニーニのバトロネであった枢機卿シピオーネ・カッファレリ=ボルゲーゼ(1576～1633)と彼を起点に築き上げられたボルゲーゼ・コレクションの中から、今回展示される約50点の名品の多くは、日本初公開の作品である。

会期 2009年10月31日～12月27日(日)
9:30～17:00
月曜休館(11/23は開館)
会場 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
入館料 1400円、大学生1000円、高校生500円
中学生以下は無料
展示 サンドロ・ボッティチェリとその弟子たち《聖母子、洗礼者ヨハネと天使》
ヴェロネーゼ《魚に説教する聖アントニオ》カラヴァッジョ《洗礼者ヨハネ》
グエルチーノ《放蕩息子》ほか

招待券は日本建築協会(TEL.06-6946-6981)へ。

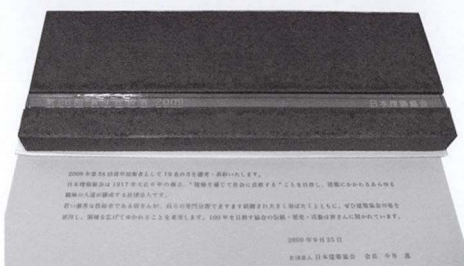
特集一覽 ● 1987~2008

本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のと

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1987 vol.68	● 入浴物語	● 腐食	● 創立70周年 記念号	● 躍動する 東海へ	● 貯蔵・保管 施設 ● 大阪府立 体育会館	● 室内の仕上床	● 駅	● 行政建築家 の可能性	● シティホテル の設備	● 宝塚の 街づくり*	● 建物と町並みの 接点 ● 昭和設計 作品集	● 第34回 青年技術者
1988 vol.69	● ホテル物語	● 軟弱地盤と 基礎 ● 文化と伝統—東 海からの報告	● 設備における L・Cと リフレッシュ ● 東畑建築事務所 作品集	● 建物の外装 リフレッシュ*	● 都心居住	● 中国地方の展望 とひろしまの まちなみ	● 21世紀への 照明 *	● 制振*	● 超高層住宅 を考える	● 集合住宅の リフレッシュ* ● 大阪府営普	● 第35回 青年技術者 ● 800号記念*	● 読賣テレビ
1989 vol.70	● 夢をのせる 輸送設備	● リゾート事情 ● 竹中工務店 創立90周年記念	● 色の復権 ● 東海の新建築 と伝統技術*	● 省力化の ための材料 ・工法	● まちづくり と法	● 博覧会と まちづくり	● 都市環境創造 と設備I	● 建築とアート	● 構造の省力化 ● 鹿島建設大阪支 店建築設計作品集	● 都市環境創造 と設備II ● ユーザー参加 のハウジング	● 第36回 青年技術者	● 最近の博覧会 パビリオン
1990 vol.71	● 商品化住宅 のデザイン*	● ニュータウン・ ルネサンス	● 東海の都市 景観 ● 住吉市文化会館*	● スケール感	● プレハブ 住宅技術の 現在と未来	● 国際花と 緑の博覧会	● 建築家のための 設備知識—中 規模オフィス ビルによる ケーススタディー	● 高度化— 設計の多様化 をめざして*	● やわらかな 住宅管理— ユーザーの 役割	● 都市のナイス ・ブレイス ● 兵庫県営繕 の歩み	● 第37回 青年技術者 ● 和歌山県の 展望と景観*	● 高級感—建物の 顔:感性の時代 を迎えて 外装材
1991 vol.72	● 新しい都市 空間づくり —I—	● オフィス・ プレジャー ● 新しい都市空間 づくり—II— ● 建築の風景	● 東海支部 復活30周年 記念	● 大阪東京海上 ビルディング	● 今、京都 ● 建築家のための 設備知識—複 合商業ビルに よる ケーススタディー	● 建築と土木 ● 毎日放送本社ビル ● 近畿地方建設 局営繕部	● 一般号*	● 建築をめぐるト ラブルとの解決 ● 建設現場のイ メージアップ作戦	● 空間のアイデン ティティ ● きんでん写真集 ● 大建設計40周年	● 自治体住宅 政策への提言 ● 大木組創業 100周年記念	● 建築と土木— 構造技術の 世界— ● 第38回青年技術者	● スリムでタフな コンクリート ● 21世紀の住まい を考える シンポジウム
1992 vol.73	● 夢物語— 人がかわる— ● まちがかわる—	● こだわりの インテリア ● 近畿の郵政建 築15年の歩み	● 建築と デザイン —東海支部*	● 建築家のための 設備知識—集合 高層住宅の設備 システム—	● 地球環境 時代の建築	● 街創り、住まい 創り—住宅・都 市整備公団西 支社10周年—	● 木構造を使っ てみませんか —集成材に よる構造—	● 接着— 建築分野への 限りなき可能性	● 中国地方の 町並みと建築 家の「語り、夢、 作品」*	● 星台一飯盛の 魅力に学ぶ— ハウジングの メインストリーム を探る	● いま建築教育 に何が期待 されているか	● 京のかたち と色
1993 vol.74	● 第39回青年技術者 ● 東畑建築事務所 創立60周年 記念作品集	● 大阪府営繕	● 東海的美術館 ・博物館	● 市民劇場の 舞台設備	● 環境— 限りある自然 と建築との かわり	● 都市の スカイライン	● 映画の中の インテリア ● いはんなブラ ザ・住友ホール	● 建築の再生— 構造技術の 役割— ● 大阪府営繕	● 国際的パート ナershップの 可能性	● 福祉の まちづくり	● 都市型住宅 再考	● 第40回青年技術者 ● 環境一人に やさしい空間創 造をめざして
1994 vol.75	● コピー文化の 新時代 ● 広島市の街創り アジア競技大会	● 九州のイン タレーション と貌	● 伊勢・神宮 式年遷宮と 神宮界隈*	● 建築のエネ ルギーシス テム	● 明日に向か って—会員 作品 *	● いま、医療 施設は	● 住空間にお ける居どころ への視点	● まちなかの 看板 ● 竹中工務店 の集合住宅	● 水と建築 ● 日本建築 総合試験所	● 建築設備のCG シミュレーション ● 村野、森建築 事務所	● 構造美— 建築の中の美 ● 集合住宅団地 リニューアル	● 第41回 青年技術者 ● 関西国際空港
1995 vol.76	● 光がつくる 風合の世界 *	● 音—騒音から 操音/創音へ	● 飛騨・美濃 —まちの活性化 と地方文化 *	● トイレから 見た都市文 化	● トイレ空間	● 接合 ● コスモタワー	● ユニバーサル デザインとは	● 私の空間 作法—会員 作品	● 新しい「都 市・建築」 の視点*	● 建築構造と 社会の接点 ● 日建設計*	● ライフライン と建築設備*	● 第42回 青年技術者 ● 滋賀県建築課
1996 vol.77	● 阪神大震災 から学ぶ	● 大阪府住宅 供給公社創立 30周年記念*	● 遠江—その 地方振興と 文化 *	● 立体駐車場 設備 ● 大建設計	● 災害!非常時に 生きる法体系 ● OAP Towers	● いま、プール がおもしろい	● 住まいの 未来像	● マルチ メディアが つくる世界	● キーコンセプト の新時代	● 最新の大規模 スポーツ競技 施設の設備	● 私の空間作法*6 ● 九州の元気 りんくうの3作品	● 第43回青年技術者 ● 近畿地建営繕部
1997 vol.78	● 建築のロン グライフ化 をめざして	● 鉄のものがたり *	● 東海支部会員作品 ● 緑・能登・風土・文 化とまちなみ・建築*	● 創立80周年記念 /建築と私と社会 —80人の眼—*	● 木造建築物の伝統 技術とその将来	● 住む空間の 復興—水・制度 の運用と新たな展開— 住居公団関西支社	● 新エネルギー 住宅・都市 整備公団改 革への提言	● クロスワード 都市OSAKA	● モザイク都市 の住むかたち ● 昭和設計 40周年	● 私の空間 作法 ● 2001年の医療 施設	● 第44回 青年技術者 ● 京都駅ビル	
1998 vol.79	● 新しいまちづ くりの予感 ● 東畑建築事務所 創立65周年	● Concrete ● 九州とわたし、 そして建築	● 東海支部 会員作品 ● 信州—諏訪と その周辺—	● 街並みの演出— 最近の外構材料	● 生活環境の 安全・安心	● 地球環境 保全と建築	● 心と体を 元気にする インテリア	● 建築設備— ビルメンテナ ンスの立場から	● 建築への証 言—98 —21世紀に 向けて	● ゆれをとめる —たえざる技術 からかわす 技術へ—	● 私の空間作法 ● 2001年の医療 施設	● 第45回青年技術者 ● JR西日本の12年
1999 vol.80	● “らしさ” のデザイン ● 建築を結ぶ 小粋なモノの杜人	● 中国支部—しま な海道と中国地方 の街づくり—	● 東海支部 会員作品—99 北信濃—街並み 修復と地域文化 の再構築	● 都市の パブリック	● 関西建築界の流 れと東畑謙三の 足跡をたどる	● 大阪城天守閣 平成の大改修	● 改正建築基準 法—まちづくり ・すまいづくりへ の展開—	● 私の目みだ 環境問題	● アーバンイン テリア—都市 空間としての インテリア	● 木とともに	● 私の空間作法	● 第46回 青年技術者
2000 vol.81	● 21世紀のデザ インの動向を見る ● 安井建築設計事務 所創業75周年	● 中国支部—しま な海道と中国地方 の街づくり—	● 東海支部 会員作品2000 ● 越中・富山—地域文化 の復興と新たな 施設づくりの流れ	● こころを癒す 環境デザイン	● 測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	● スケルトン& インフィル	● 改正建築 基準法 —パートII—	● 100年後への メッセージ ● 日建設計創業 100周年	● 来世紀に 引き継ぐ— わが、もの、 このころ—	● 時間	● 私の空間作法— 会員作品— ● 21世紀の高齢 者の居住環境	● 第47回 青年技術者
2001 vol.82	● エヌ・ティ ファシリ ティーズ	● 21世紀の建 築設計教育	● 東海支部 会員作品 ● 岐阜・大垣	● IT社会に おけるきず な	● 自然素材をめ ぐる「もの ・わざ・ひと」	● 成熟社会を ささえる まちづくり	● 現代の日本 の空間・文 化を探る	● 環境—近未来に 向けて— ● 大建設計—作品特集				

45



楯は335×130mmの陶レリーフ。短辺2/3の所には「第56回青年技術者2009」と彫り込んだフロートガラスが嵌め込まれている。

◀自作を語る
大平滋彦さん



第56回青年技術者に選ばれた19人全員の顔が9月25日に揃えば…と9月の初めに表彰式の案内をしたが、仕事の都合や当日インフルエンザにかかって来られなかった人が5人。名古屋で勤務する石山直希さん・上河内浩さん・河登健太郎さん、大阪の事務所に勤める上野圭介さん・杉山美納さんは欠席だった。

17時には、OMMビル地下1階の表彰式

会場に緊張の面持ちで青年技術者が続々と登場し、受付をすませて中に入り、着席する。

まず中井会長から、創立93年目を迎えた日本建築協会の歴史を踏まえ、100周年に向けて動き始めた事業の紹介と、これらの事業を利用してうまく日本建築協会にかかわってほしいとの挨拶があった。出張帰りの設楽選考委員長も、カバンを抱えてかけつける。

そのあと、中井会長から出席の14人に記念

の楯を手渡した。続いて、青年技術者受賞者を代表して、熊野豪人さんから挨拶があった。

表彰式最後の設楽委員長の講評では、「クリエイティブなマインドを持ち続けること」が最も大事だという言葉も飛び出てきた。

*

17時30分から始まった講演会の講師・大平滋彦さんは竹中工務店大阪本店設計部設計グループリーダーである。また、第47回青年

第56回青年技術者表彰式開会挨拶

日本建築協会会長 中井 進

選考の結果選ばれた19名の皆さま誠におめでとうございます。

35歳以下の青年技術者の表彰制度は、1954年の発足以来56回目となります。その間、約1000名の方が皆さんの先輩として表彰され、各方面で活躍されています。皆さま方もこれからの建築界を背負っていくという立場で仕事をされ、実績を残してこられ、それが評価されました。

日本建築協会は、発足当初は東の建築学会、西の建築協会といわれ、93年目を迎えました。当協会の特徴として裾野が広いということがあります。これは会員が行政、大学、設計・建築業界、メーカー等、およびそこに属する人から成っており、サロンのなところもある故であります。このような場を上手に活用していただきたいと存じます。

現在、連続企画として大阪ええとこ創生プロジェクト「大阪かくれたええとこ再発見コンクール」を展開しております。かくれたええとこを集めてこれをどのように再生できるかという新しい提案をするようなことも考えています。

また、会誌「建築と社会」において関西の近代建築を紹介する「再読関西近代建築」も連載を始めました。9月号からは「関西の建築界群像」と題して、建築にかかわる気鋭の人々のインタビュー記事も掲載しておりますが、このインタビューは、昨年青年技術者に選考された方々をお願いしております。皆さま方も協会を上手に利用されるとともに、事業に何らかの形でかかわっていただくことをお願いします。

皆さま方の、より一層のご活躍を祈念しましてご挨拶とします。

第56回青年技術者講評

第56回青年技術者選考委員長 設楽貞樹

青年技術者に選ばれた皆さんおめでとうございます。

建築を取り巻く社会情勢は非常に厳しいものがあります。建築主の要求事項は年々シビアになる一方、コストや法規の条件も厳しい状況でも、品質のよい建物をつくっていくことが、われわれ建築を生業とするものの努めであると思います。そのようななかで最も大事なことは、ひとり一人が「クリエイティブなマインドを持ち続けること」であると考えています。

審査はその「クリエイティブなマインド」を読み取るかということを中心に行われました。全応募者28名のうち選ばれたのは19名でしたが、応募いただいた方はいずれも優秀な技術者であり、大きな差があったわけではありません。ここにおられる方々はご自分の足跡、果たした役割、そして建築に対する熱い思い、すなわち「マインド」をしっかりと語って、審査員に伝えることができた方ということだと思います。この伝えるという能力もとても大切なのです。自分の考えをきちんと伝えられなければ、相手の理解を得られないからです。

皆さん方は今後関西の建築界をリードする立場になられる方々だと思っています。そこで皆さんに二つのお願いがあります。

一つ目は、ここに集まっていた機会にぜひお互いに名刺交換などされて、親交を深めていただきたいということです。この次お互いに顔を合わせるのにはプロポーザルのヒアリング会場だったりすることでしょうが、皆さんは同じ建築界の仲間であり、よきライバルになっていただきたいのです。ライバル同士が建築界を盛り上げる。建築協会の果たすべき役割のひとつはそのような機会を提供することであると思っています。

お願いの二つ目は、この機会に建築協会の活動に積極的に参加していただきたいということです。できれば委員になって活動をリードする立場になっていただきたい。「建築と社会」で皆さんの載っている9月号から始まった「関西の建築界／群像」というシリーズのインタビューとして、皆さんの先輩の青年技術者のなかから何人かの方々が活躍されています。活動参加にはいろいろな形がありますのでぜひ検討してください。名誉を受けられたのだからちょっとだけお返ししてくださいということです。

皆さんのこれからのご活躍を心より祈念いたします。



中井 進会長



設楽貞樹選考委員長



受賞者代表の熊野豪人さん

技術者でもある。このときの応募テーマのメインであった新日本海フェリー敦賀ターミナルや、関西大学の一連の作品、聖ヨゼフ学園京都暁星高等学校を素材に自身のものづくりへの想いを、映像を見ながら熱く語った。

＊

18時30分。会場の片隅には料理のにおいが立ち込め、大井昇二副会長の乾杯の音頭で、懇親会が始まる。

青年技術者を含め約40人が料理を取り囲み、ビールをつぎあい、料理を片手に、懇談する。とりわけ青年技術者同士は、会社は違っても仕事の話が通じあうのか、一団となって話し込んでいる。19時30分の散会の知らせがあってもどこ吹く風。話は尽きないのか、顔を突き合わせ、身振り手振りが続く。

そして最後に、出席した青年技術者一同で記念写真をパチリ。

■第56回青年技術者表彰式・講演会・懇親会
日時 2009年9月25日（金）

場所 OMMビル地下1階「ギャラリー」

●表彰式（出席者）

受賞者 岡田 健／岡本一真／奥 貴人
／金丸沙映／國本暁彦／熊野豪人／黒川祐樹／黒柳 亮／墨英子／中村祐記／長屋圭一／間淵一博／山岡篤人／山口治子

選考委員 設楽貞樹／吉田文男／太田 寛／桑原 進

協会役員 中井進会長ほか7名

一般参加 11名

●講演会 17：30～18：20

出席者 43名

講師 ㈱竹中工務店大阪本店設計部設計グループリーダー課長・大平滋彦

テーマ 「建築をつくる」—ものづくりへの想い—

●懇親会 18：30～20：30

出席者 一般参加者・講師・受賞者・協会役員等40名

理事会

第4回常任理事会

9月25日(金) 16:00~17:00

出席者 中井会長ほか8名

- 議 事 (1) 新業務報酬基準に係る要望活動
(2) 住まいまちづくり教育への協力
(3) 後援名義等の使用承諾
(4) その他報告事項等

編集委員会

第6回編集委員会

9月9日(水) 18:15~19:45

出席者 設楽委員長ほか2名

- 議 事 (1) 10月号特集「地域の歴史資産を活かしたまちづくり」の報告
(2) 11月号特集「第16回会員作品特集“私の空間作法”」の報告
(3) 12月号特集「構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～」の報告
(4) 1月号特集「日建設計創業110周年」の報告
(5) 2月号特集「建築とエコ」(仮称)の企画
(6) 各小委員会・分科会の報告
(7) 2010年度特集担当企画

第6回法令分科会

9月16日(水) 15:00~17:30

出席者 鷺尾幹事ほか4名

- 議 事 (1) 10月号「地域の歴史資産を活かしたまちづくり」特集原稿の査読
(2) 来年の法令特集掲載号の件
(3) 「法令コーナー」の企画
(4) 情報交換

第6回構造分科会

9月4日(金) 18:00~19:30

出席者 岸本幹事ほか5名

- 議 事 (1) 「構造の頁」の企画
(2) 12月号「構造家日記～頭の中をのぞいてみたら～」特集の企画

第6回作品作風小委員会

9月24日(木) 19:00~22:00

出席者 居内副委員長ほか7名

- 議 事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3) 「gallery」掲載報告・予定
(4) 前回の編集委員会の報告
(5) 11月号特集「私の空間作法」

掲載作品のレイアウト

(6) その他

第6回広告企画小委員会

9月9日(水) 17:00~18:15

出席者 設楽委員長ほか4名

- 議 事 (1) 10月号「地域の歴史資産を活かしたまちづくり」特集関連広告検討
(2) 11月号「第16回会員作品特集“私の空間作法”」特集関連広告検討
(3) 広告掲載状況の報告
(4) 2010年2月号「建築とエコ」(仮称)特集の企画検討

広告企画小委員会—2月号特集企画委員会—

9月30日(水) 17:00~19:00

出席者 設楽委員長ほか2名

- 議 事 2010年2月号「建築とエコ」(仮称)特集の企画

第6回10年委員会

9月3日(木) 18:30~20:00

出席者 設楽委員長ほか5名

- 議 事 (1) 第3回学生のための現場見学会
(2) 第2回大阪「かくれたええところ」再発見コンクール

第56回青年技術者表彰式

第56回青年技術者表彰式・講演会・懇親会

9月25日(金) 17:00~19:30

場 所 OMMビル地下1階 ギャラリー

●表彰式

出席者 受賞者 14名

選考委員 設楽委員長ほか3名

協会役員 中井会長ほか7名

一般参加者 11名

(1) 会長から受賞者へ記念品の授与

(2) 受賞者代表—篠竹中工務店・熊野豪人氏—の挨拶

●講演会

出席者 43名

講 師 篠竹中工務店大阪本店設計グループリーダー課長・大平滋彦氏

テーマ 「建築をつくる」—ものづくりへの想い—

●懇親会

出席者 40名

一般参加者・講師・受賞者・協会役員等

事業委員会

第4回情報見学小委員会

9月10日(木) 18:00~19:00

出席者 瀬戸川委員長ほか9名

議 事 本年度事業について

出版委員会

第5回出版委員会

9月17日(木) 18:00~19:45

出席者 山田顧問ほか7名

- 議 事 (1) プロのノウハウと特装本の経過報告
(2) 進行中のテーマについて
(3) その他

特別委員会

第3回「建築と社会」史料研究会

9月29日(火) 18:00~19:40

出席者 山形委員長ほか6名

議 事 今後の連載企画内容の検討

第5回群像(インタビュー)

[実施日]

・9月19日(土) 12:00~14:00

・9月29日(火) 17:00~20:00

※関西の建築界「群像」登場者の人間像に迫る—間宮吉彦<篠インフィクス>—
影林督論(インタビュアー)

入会者(敬称略)

[個人正会員]

白石 京士 高松建設(株)

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計 施工



本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話(03)3261-8231
支社 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所 旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店 シンガポール・ホンコン
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話(0492)58-1511



We have hope

■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、
雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング、コンサルティング、ITソリューション、
web及びメディアコンテンツ企画制作



株式会社NPGコーポレーション

本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel: (06) 6351-7271 (代) fax: (06) 6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel: (06) 6351-0128 (代) fax: (06) 6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1
一光浜松町ビル7F
tel: (03) 3433-5211 (代) fax: (03) 5776-7733
(旧社名ナニワ印刷機、日本データネット機)

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛸池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLビル

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA (膨張性混和材)

●デンカタスコン (グラウト用無収縮材)

●デンカキューデックス (止水・補修用急硬セメント)

●デンカES (土質安定用急硬材)

●デンカΣ1000 (製品用超高度混和材)

コンクリートのひびわれ防止に

鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに

コンクリート躯体の漏水補修に

地盤補強用薬注入

コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・京丹後 (0772) 72-2220
舞鶴 (0773) 76-0133

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪 (06) 6332-6861

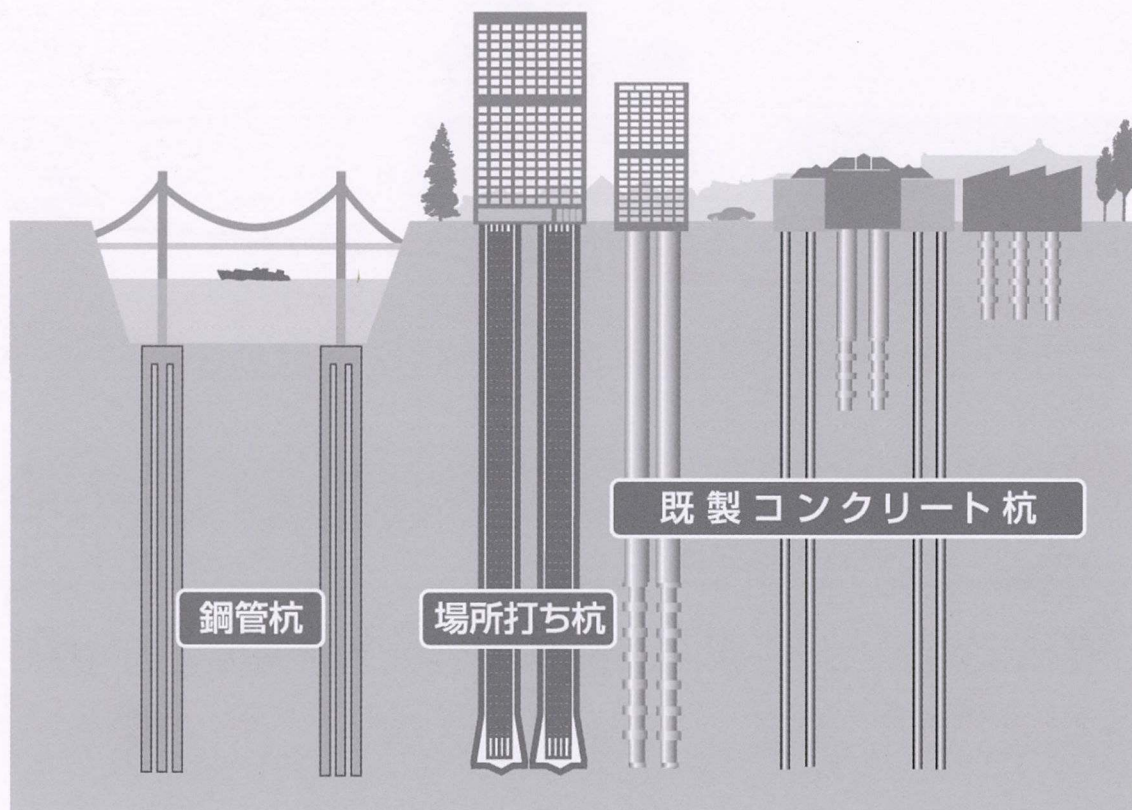
TEL 東京 (03) 3272-8501

小浦産業株式会社

TEL 大阪 (06) 6443-6181

最適の基礎杭を!

低層・中層・高層・超高層 —— その全てのニーズに対応。最適の杭を提供いたします。



全国に15工場を持ち、年間5,000件を超える基礎工事を取り扱う、日本最大の基礎建設専門会社です。

建物を支える基礎の構造は、建物の種類、建てる場所の地盤により個別に考える必要があります。当然、基礎杭は最適なものを選ばねばなりません。それは「確実な地盤評価」「高品質の基礎杭」「適切な施工」が三位一体となって初めて実現するものです。私たちジャパンパイルは、豊富な施工実績で蓄えた幅広いノウハウと、高度な技術力により、さまざまなニーズに対応。全ての建築物に信頼性の高い基礎杭を安定供給いたします。



ジャパンパイル株式会社

■関西支社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋1-6-10(豊田日生北浜ビル2F)
TEL 06-6226-1191 FAX 06-6227-4191

■中部支社 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-4(坂種栄ビル16F)
TEL 052-746-9141 FAX 052-955-0672
URL <http://www.japanpile.co.jp/>